

「上越教師の会」における教育実践の展開過程 ～江口武正教育実践資料（江口資料）にもとづく一考察～

和井田 清 司*・釜 田 聡**・杉 浦 英 樹***

（平成17年10月31日受付；平成17年11月30日受理）

要 旨

新潟県上越地域には、優れた教育実践の伝統がある。戦後、江口武正を中心として上越地域に組織された「上越教師の会」の実践は、その一典型例である。半世紀を超えた会の実践は、戦後教育の知的遺産であり、また今後の教育に一定の示唆を与えるものである。小論は、会の指導者であった江口の活動に着目し、氏の年譜や氏のもとに保存されていた一次資料（江口資料）の概要を紹介し、あわせて江口および「上越教師の会」実践の通時的な分析を試みたものである。

KEY WORDS

Joetsu-Kyoshi-no- Kai	上越教師の会
Local-Based Educational Practice	地域に根ざす教育
EGUCHI Takemasa	江口武正

1. 問題の所在～教育実践の知的遺産に学ぶ

上越地域をはじめ、新潟県内にはすぐれた教育実践の伝統がある。戦前の事例としては、明治維新期の動乱の中から日本初の小学校を創成した小千谷、小作争議のなかで無産農民学校を創出した木崎村（現・新潟市豊栄）、大関松三郎「山芋」の指導者であった生活綴り方教育の寒川道夫等が著名である。また、戦後においては、コア・カリキュラムの研究と実践、「上越教師の会」（以下、「」を略記）による一連の実践、新潟水俣病をとりあげた〈公害と教育〉の実践、全国に先駆けて取り組まれた生活科や総合学習の実践等が顕著な事例である。

以上のような教育的伝統を知的遺産として発掘・再評価し、今後の実践への示唆とすることが重要な課題となっている。この課題に応えることは、地域貢献や地域との連携を追究する地方国立大学法人の使命でもある。特に、地域教育実践の基礎資料の収集と分析を目的とする本研究は、地域教育実践学の構築を旨とする本学（上越教育大学）の使命に応えるとともに、地域の教育遺産を今後の研究に継承する視点と研究材とを院生等に提供するものとなる。近年、各大学の地域連携・地域貢献の取組が前進している。しかし、地域との協力関係の構築は、一時的・非日常的な教育技術や教育サービスの提供という「連携」の限界を超え、地域の教育現実を創造する目標を目指したいものである。その意味で、地域教育実践を担う教師の力量形成を

* 上越教育大学・学習臨床講座
** 上越教育大学・学校教育総合研究センター
*** 上越教育大学・幼児教育講座

地域において展望することが、特に教員養成系大学の地域貢献の内実として重要となる。

上述した教育実践の伝統のうち、とりわけ重要かつ緊急の課題として上越教師の会実践資料の収集・保存・活用の課題がある。会の創立者・指導者であった江口武正の自宅には貴重な教育実践一次資料（以下「江口資料」と略記）が保存されている。それらの資料が散逸する前に、整理・記録し、知的遺産として継承する必要が生じている。

江口資料のなかには、未公開の講演記録・実践資料・指導ノート等が含まれ、学術的価値の高いものである。また江口資料は、江口自身の実践記録に止まらず、上越地域における戦後教育実践の動態および展開過程を研究する際の一次資料となる。

そこで、本研究では、第1に江口資料の収集・整理・分析・公開への道筋を確かなものにするとともに、第2に江口資料を活用して上越地域における教育実践の動態および展開過程を探究することとする。こうした課題に取り組むことを通して、地域教育実践（特に、学校づくり、教科教育（社会科教育）実践、生活科・総合学習実践等を核として）の研究と実践の基盤を整備することが可能となる。ここに、本研究の特色と意義が認められる。

ところで、江口・上越教師の会の実践については、社会科教育学の分野を中心に先行研究の一定の蓄積がある¹⁾。だが、それらの研究の多くは、ある時期の実践をとりあげ、筆者の視点から外在的な論評を加えるものである。また、実践に関わる一次資料の活用や実践者へのインタビューなど、内在的なアプローチの努力に欠けたものであった。本研究は、先行研究に学びつつも、①実践の展開過程への通時的な分析を意図すること、②一次資料や関係者への取材による資料を活用して内在的な分析を加えること、③戦後教育実践の知的遺産を確認し今後の実践への示唆の導出をめざすものである。小論は、かかる研究の出発点をなすものである。

以下、まず、2.において江口武正の人と実践の概要を、時系列的なかたちで紹介する。次に、3.において江口資料の内容と特色を指摘する。さらに、4.において今後の研究課題について略述することとする。また、付録として、江口武正年譜と江口資料リストを掲載することとした。

付録として掲載する資料には、次の意味がある。すなわち、江口と上越教師の会については、戦後の教育実践の典型的ケースとして研究され評価されてきたものであり、これらの活動を跡づける年譜や一次資料の存在は、学術的価値の高いものといえる。そこで、今回整理した江口資料を、今後の研究の糸口として提供するため、江口資料のリストおよび江口自身の手になる年譜を紹介することとした。

なお、執筆分担は、1.和井田、2.釜田、3.和井田、4.釜田・和井田、年表・釜田、資料リスト・杉浦であり、全体を和井田が調整した。

2. 江口武正の人と実践

「上越教師の会」創立者かつ指導者であった江口武正は、次のような略歴を経た実践家である。

1926.10 中頸城郡保倉村生誕
 1947. 3 (20歳) 新潟第二師範学校を卒業
 1947. 4 (20歳) 津有村戸野目国民学校訓導
 1958. 4 (31歳) 高田市立大手町小学校教諭
 1966. 4 (39歳) 直江津市教育委員会指導主事
 1969. 4 (42歳) 刈羽郡北条中学校教頭
 1972. 4 (45歳) 東頸城郡浦川原村月影小学校校長
 1976. 4 (49歳) 中越教育事務所指導主事
 1978. 4 (51歳) 西頸城郡名立町名立中学校校長
 1979. 4 (52歳) 中頸城郡大潟町大潟町中学校校長
 1985. 4 (58歳) 上越市立南本町小学校校長
 1987. 3 (60歳) 定年退職
 現在 (79歳) 上越市内に居住

江口は、自らの足跡を記した「年譜」をたびたび作成し、また執筆した論文や実践資料を丁寧に記録・保存してきた。以下、それらの資料をもとに、江口の人生と教育実践の概要を、その時々々のエピソードを交えつつ記述することとする。

2-1 江口武正の略歴

1956 (昭和31) 年1月、農村社会の実践『村の五年生』(新評論社)が出版され、全国に大きな反響を呼び起こした。当時、江口は29歳の青年教師であった。しかも、実際に教育実践「こうちせいり」(『村の五年生』)に取り組んだのは、その2年前、江口が27歳のときである。

松丸志摩三は、当時の青年教師江口の様子を、「こんな活動ができる江口君という人は、いまの農村社会の学校の先生たちのなかでは、少し異常な存在なのではなかろうかという気がする。それだけ、江口君の活動ぶりをはたで見ている、あんなに無理をして身体をこわさなければいいが、と心配に思うことも珍しくない²⁾と評している。

ここでは、主に青年教師江口がどのような経緯、あるいは教職観に基づき、『村の五年生』の教育実践に取り組み、サークル・上越教師の会の発展に寄与したかに迫る。

2-2 江口武正の生い立ち

江口は、1926 (大正15) 年10月30日、新潟県中頸城郡保倉村上吉野 (現・上越市上吉野) にて、父武治・母チトセの五男、五女の長男として生まれた。

江口が生を受けた時代は、1920 (大正9) 年の戦後恐慌、1923 (大正12) 年の関東大震災、1927 (昭和2) 年の金融恐慌、その後の昭和恐慌と、いわゆる「震災・恐慌の時代」であり、「軍部の台頭」への幕開けの時代でもあった。

1941 (昭和16) 年、新潟県中頸城郡保倉村上吉野尋常高等小学校高等科を卒業し、新潟県高田師範学校予科一年に入学した (14歳)。

1944 (昭和19) 年、本科一年となり、アジア・太平洋戦争の敗色に伴い、学業が停止され学

徒動員として日本通運高田支店（一か月）、日本曹達二本木工場（三か月）、富山市富士越工場（一年）に勤務する（17歳）。

2-3 江口と終戦

1945（昭和20）年7月27日、軍隊の召集令状を受け、8月2日松本市歩兵連隊に二等兵として入隊。8月15日に終戦を迎え、8月31日に除隊し帰郷した（18歳）。

江口は、「教育への目を開いてくれたもの」の一つとして、1945年の終戦の日の出来事（体験）をあげ、その時の様子を次のように語っている³⁾。

終戦をむかえた時、大変な状況でございました。中隊長、小隊長はまさに狂乱の状態でありました。私たちは一発ずつの手榴弾を手渡されたのでございます。そして、「悠久の大儀に向かって前進」という号令のもとに出発致しました。皆さんご存知のように「悠久の大儀に向かって前進」ということは自決しろということなのであります。私たちは涙をボロボロに流しながら歩いたのでございますが、幸いなるかなちょうど、中間の所で衛兵がとんでまいりまして「自決はまかりならん」ということで、幸いにして一命をとりとめることができました。

私達の班の班長は長野師範出身の方でございました。あの終戦まぎわの時に、岩波新書を常に何冊か肌身離さず持っておられました。暇さえあれば、これを読んでおられたのであります。私はその姿を見て深く感動しました。さていよいよ帰郷するときでございましたが、私が班長とお話をしたとき、「江口君いよいよ戦争は終わったね。僕は、やがて戦争は終わるだろうと思っていたんだ。しかしもう終わったんだ。江口君いいかね。いよいよ学校へ戻れる時がいつか必ず来る。この時には子どもを大切にすよい教師になってくれよ。これが僕からの君へのお願いだ。」こういうふうにいわれたのでございます。このことばがとて私にとっては印象的でありました。

江口にとっては、思春期の多感な時期に、「忠君愛国」の国家主義的な教育を学ぶことを余儀なくされた。師範学校予科一年に入学後、本科一年になったところで、学業が停止され学徒動員、その後、徴兵されるなど、自分の意志ではいかんともしがたい運命に翻弄され、ついには死をも覚悟させられたのである。

このような状況において、江口の上司（班長）は、将来の教育への夢を江口に切々と語ったのである。江口にとっては、班長の言葉（「子どもを大切にすよい教師になってくれよ」）は、将来の江口の姿を暗示するものでもあった。

2-4 一冊の本との出会い

終戦の時期にもう一つ、江口の教職人生に大きな影響を与える出来事があった。それは、一冊の本との出会いである。その本との出会いについて、江口は、次のように語っている⁴⁾。

昭和20年10月、当時軍隊から再び学生生活に戻った私は古本屋で一冊の本を求めました。それは、平野婦美子先生の『女教師の記録』であります。私はその『女教師の記録』をむさぼり読み、読み進めるうちに感情が高まり涙がとめどなく流れるのをおさえることができませんでした。この1冊の本は教師とは何かについて深く考えさせてくれた貴重な出会いであったので

す。「教師になったら子どもを大切にしよう。教師になったら実践記録をしっかりとろう」と私は自分の心にそう誓ったのです。

平野婦美子の『女教師の記録』は昭和15年4月に初めて刊行され、その年の6月に文部省の推薦図書に指定された。平野婦美子の献身的なまでの児童に対する愛情・熱意がにじみ出ている教育実践記録であり、当時数多くの教育者から敬意が払われるようになったという⁵⁾。

しかし、平野婦美子は、昭和17年春、教職を放逐された。あわせて、文部省は『女教師の記録』の図書推薦を取り消した。当時の日本の教育界は、綴り方事件、生活教育事件など、思想弾圧の嵐が吹き荒れ、平野婦美子とその著書『女教師の記録』はその犠牲になったのである。

江口は、『女教師の記録』から、「感情が高まり涙が止めどなく流れるのをおさえることができませんでした」と深い感銘を受けた。とりわけ、教育実践の記録をとることの意義とそのすばらしさに心を動かされたという⁶⁾。

ところで、平野婦美子『女教師の記録』と江口武正の『村の五年生』は幾つかの点で共通点がある。特筆すべきことは、両者とも、徹頭徹尾、子どもの生活に着目し、そこから問題の掘り起こしに取り組んだことである。また、子どもへの献身的なまでの愛情は、時空を超えて、今日の読者の心を打つ。

2-5 池野倬治校長との出会い⁷⁾

1947(昭和22)年3月、江口は新潟第二師範学校本科三年を卒業し(学業成績優秀賞を受賞)、3月31日新潟県中頸城郡津有村立戸野目国民学校訓導として着任する(俸給は390円)。

着任早々、江口は、校長池野倬治の示唆により、県内初めての学級PTAを結成し、11月の県教育指定校の発表会「新教育の諸問題と我が校の実践報告」で発表することになる。県内初の学級PTAは、その後の江口の『村の五年生』をはじめとする数々の教育実践の基盤となった。すなわち、教師と保護者、教師と子ども、保護者と子どもに、民主的な関係を求め、数々の対話を通じることによって、そこから初期の江口実践が生成されていったといえよう。

2-6 小泉孝教頭との出会い⁸⁾

1947(昭和22)年4月、赴任5日目に、江口は小泉孝教頭に呼ばれた。小泉教頭は、約30ページの白表紙の本を江口に渡し、2カ月で津有村のことを調べるように指示した。江口は大変びっくりして、「教頭先生、これを2カ月で書くのですか」と躊躇すると、小泉教頭は、「村のことが分からなくて、村の子どもの教育ができるか」と、大変きつい声で叱責したという。

困りはてた江口は、先輩教師にこっそりと、「おまんだ赴任したとき、これをもらった。じゃ悪いけどそれを俺にみしてくれないかね。俺、写しちゃうから」とお願いしたという。当然、先輩教師は「ばかやろう。そんなのはだめだ。自分の体でもって確かめて、自分の足で調べなければ何にもならん。だからちゃんとやりなさい」と厳しく指導した。

その後、江口は、放課後や土曜日を使って自転車地域を調べ続け、「自分の目で見、自分の足で調べ、自分の頭で考える。自分の言葉でものを書くことの大切さ」を実感することになる。

2-7 杉臣正教頭との出会い⁹⁾

1949(昭和24)年5月、江口が高田の研究会の出張から帰ると、杉臣教頭がただ一人江口の

帰りを待っていた。杉臣教頭は、江口の出張中の江口学級の様子（授業中騒ぎ、清掃中はほうきをふりまわしていたこと）を伝えるとともに、「子どもというのはね、言ったようにならない、やったようにしかならない」と指導した。

江口は、このことばの意味を一晩考えぬいて、自分のものとしている。つまり、子どもは教師が言ったからといって、そのとおりにやらない。教師の日々の取組、やっていることを見ながら子どもがやるものだというのに気付くのである。その後、江口は杉臣教頭のことばを、教師の生き方の重要な部分として、生活指導や生徒指導の根幹として、日々の実践に取り組んだという。

2-8 サークルの結成¹⁰⁾

1952（昭和27）年夏、江口は、千葉県富崎（館山市）で開催されたコア・カリキュラム連盟に参加し、民間サークルの意義を実感することになる（参加者約50名）。

1953（昭和28）年8月、江口は、後輩の梅沢勤を誘い、群馬県で開催された全国青年教師連絡協議会の結成集會に参加した。二人は、サークルのすばらしさに魅了され、サークルをつくる必要性を痛感した。江口は、その必要性について、次の二つをあげている。

一つは、一人ひとりの若い教師が正しいと思うこと、子ども達に是非してやりたいと思うことをおし進めようとしても、おしつぶされそうな風潮が迫ってきたこと。もう一つは、子どもの問題、教育の問題を掘り下げて話し合う機会をつくろうとすることであった。

当時は、朝鮮戦争の勃発を契機に、急速に右傾化していく時期であるが、まさに教育もそうした時代の潮流（いわゆる「逆コース」）が押し寄せてきた時期でもあった。こうした時代、江口は、子どものため、教師の自律性を発揮せねばと思ったのである。

その後、1954（昭和29）年1月、北国特有の雪のこんこんと降りしきる晩に梅沢の下宿で「若い教師の会」を7人で結成することになる。

江口は、この年、「こうちせいり」（『村の五年生』）の実践に取り組む。まさに、青年教師江口が生涯の親友（仲間）を得て、後に全国から注目される教育実践に取り組もうとする瞬間であった。

以上、1956（昭和31）年の『村の五年生』出版に至るまでの江口の人生と教師としての生き方について概観してきた。

特筆すべきことは、江口自身が数々の出会いを自分の教職人生の中で意味あるものとして位置づけてきたことである。

先輩教師から時々厳しい叱責を受けたことについても、自らが意味あるものと認識した場合には、その後全精力を傾け誠実に取り組んでいる。もちろん、江口自身の卓越した力量に負うところが大きいといえるが、それを支えたサークルの仲間や出会った子どもたちの存在を忘れることはできないであろう。

2-9 江口武正と『上越教師の会』Ⅰ

－若い教師の会から上越教師の会、サークルの二つの危機－

1954（昭和29）年1月、「若い教師の会」として発足したサークルは、1957年4月「上越教師の会」と名称が変わった。そのとき、会の性格を「学級経営を基底とする社会科の研究団体」と規定した。

サークルの活動が軌道に乗ったかに見えた頃、サークルにとってショッキングな出来事が起きた。1956（昭和31）年1月のことである。

江口の親友である山賀の兄は警察官であった。あるとき、山賀は江口に「江口さん、実は私の兄が警察官だけどね、先日、『昭治、お前たちのサークルの名前がブラックリストにのっているので注意しろよ』と言われた」と告げた。江口はその言葉にかなりのショックを受け、サークルの在り方について思い悩む。その後、公権力のサークルへの注視という雰囲気伝わったのか、サークルの例会への参加者が徐々に減っていったという¹¹⁾。

1960（昭和35）年2月には、若手教師のDから「あんなサークルに入っていると将来管理職になれんぞ、とあちこちの先輩にいわれる。サークルをやめさせてもらいたい」と相談を受けた。江口らは、懸命に若手教師Dを説得することで、本人もサークルを継続することになった。江口、山賀、梅沢らは、このような状況をサークル運営上の危機と深刻に受け止め、対応について話し合うことになる。そして、1961（昭和31）年4月、江口、山賀、梅沢の3人が、一挙にサークルの運営委員をやめることになる。

その後、サークル活動は明確に沈滞化していった。機関誌「せんせ」の発行は止まり、サークルの運営委員会は麻雀ばかり、サークル通信はありきたりのものになったという。

1962（昭和32）年4月、江口、山賀、梅沢の3人はサークルの活動に危機感を感じ、再び運営委員につく。案内状に手紙をそえて出すなどの工夫をして、サークルの所属意識を高めることに心掛けた。その結果、徐々にサークルの加入者が増えてきたという。

2-10 江口武正と『上越教師の会』Ⅱ - サークルの充実期へ -

1958（昭和33）年3月15日、教育課程審議会は小・中学校の教育課程の全面改定について答申をした。文部省は、小学校の新教育課程は昭和36年度から、中学校は37年度から実施するが、「道徳教育」については新年度から先取り実施する方針を提示した¹²⁾。

江口らは、この前年4月に「若い教師の会」から「上越教師の会」とサークルの名称を変えてから後、精力的に社会科の単元習作に取り組んでいった¹³⁾。しかし、「散発的な社会科研究に終始していてよいのだろうか」という厳しい反省が生まれ、サークルとして共同研究の必要性に迫られたという¹⁴⁾。その後、社会科の原点に立って、改訂学習指導要領を検討し、実践を通じて批判するサークルとして発展していった。

2-11 「生産労働を軸にした社会科」へ¹⁵⁾

上越教師の会は、1958（昭和33）年の教育課程審議会の答申を受け、実践を通じて改訂指導要領の批判を強めていった。特に、1959（昭和34）年夏の合宿研修において、「生産労働を軸にした社会科」が共同研究の方向とされた。その後、いわゆる「生産労働の科学的認識の発展段階」の5原則を提示するなど、実践的な研究を深めていった。

1962（昭和37）年、雑誌『生活教育』に上越教師の会の共同研究「生産労働の科学的認識の順次性とその実践」が発表されると、大きな反響を呼んだ。この発表後、上越教師の会の共同研究の成果が「上越プラン」と呼ばれ、香社研（香川県社会科教育研究会）プラン、東京サークルのプランなどとともに、全国から注目をあびることになった。

二つのサークルの危機を乗り越え、全国からも注目される実践を次々に生み出すなど、まさに上越教師の会の充実期を迎えたといえよう。このとき（昭和37年）、江口は35歳、旧高田市

内の中心校である大手町小学校に勤務し、校内でもその力をいかに発揮していた時期でもある。そして、1965（昭和40）年には、上越教師の会の共同研究の証として、上越教師の会編著書『生産労働を軸とした社会科の授業過程』（明治図書）を出版した。

ここにおいて、上越教師の会が、日本の社会科教育界のなかで、独自の存在と認められるとともに、その実践について多くの批判が寄せられることになった。

時あたかも、ブルーナーの「教育の現代化運動」が日本の教育界に大きな影響を与えていた。ちょうどそのころ、江口は大手町小学校の研究主任として、1966（昭和41）年10月に全国公開研究会を開催し、『学習指導の現代化』（明治図書）を出版した。指導者には、名古屋大学の広岡亮蔵を招いた。言うまでもなく、広岡亮蔵は当時の日本教育界においては、教育の現代化運動の理論的な指導者の一人であった。そして江口は広岡の理論と実践を身をもって体験し、これまでの自分自身の社会科教育実践を問い直すことになった。

1970（昭和45）年から1971（昭和46）年にかけて、上越教師の会の例会が月2回開催された。こうした江口と上越教師の会の思いが、1971（昭和47）年には、上越教師の会編著書『生産労働を軸とした社会科教育の現代化』（明治図書）の発行というかたちで結実する。

かつて、松丸志摩三が「あんなに無理をして身体をこわさなければいいが」と心配したが、まさに江口と上越教師の会の教育実践への思いがほとぼしる時期であったといえよう。

2-12 管理職としての江口

1973（昭和48）年、上越教師の会は20周年を迎えた。

江口は、その前年（1972（昭和47）年）、北条中学校寄宿舎¹⁶⁾において、心筋炎にて倒れた。刈羽郡病院に救急車で運ばれ一命をとりとめたが、21日間の入院生活を余儀なくされた。

その後、1972年4月には、東頸城郡浦川原村立月影小学校の校長として着任した。校長として江口は、「地域に根ざした教育」を推進した。とりわけ、1973（昭和48）年に実施した「ノーカバンデー」（特定の土曜日を通常の授業ではなく、子どもたちの自主活動や地域の人との交流活動に充て、「地域に根ざした教育」を実践した）は、各方面から注目された。研究面では、1973（昭和48）年にへき地教育研究会「目を輝かして学ぶ子どもへの道」を行い、参会者203名を集めている。

その後、1976（昭和51）年4月新潟県教育庁中越教育事務所指導主事、1978（昭和53）年4月西頸城郡名立町立名立中学校長、1979（昭和54）年4月中頸城郡大潟町立大潟町中学校長、1985（昭和60）年4月上越市立南本町小学校長を歴任、1987（昭和62）年3月31日に定年退職し、教職40年の幕を閉じることとなった。

江口自身、管理職として重責を担いながらも、1982（昭和57）年には、上越教師の会著『地域に根ざす教育と社会科』（あゆみ出版）を発行している。江口は、後に「執筆者のなかでは、小林毅夫・寺田喜男・秋山正道・後藤清代の健筆が特に目立った」¹⁷⁾と評している。江口にとっては、5年後に定年退職を控え、小林毅夫らの若手・中堅教員が着実に育ち上越教師の会を支えていることが、何よりも嬉しいことではなかったのではないだろうか。このような教育実践の継承と発展が、サークル上越教師の会の大きな使命の一つであったと思うからである。

なお、以上略述した江口の実践の足跡は、資料として小論の最後に掲載した「江口武正年譜」に詳しい。

3. 江口武正教育実践資料（「江口資料」）の概要と資料的意義

3-1 「教育実践」資料の意味

小論の課題は、江口武正教育実践資料の概要とその意義を紹介し、それらの資料を参照しながら、江口および上越教師の会の教育実践を点描することにある。ところで、ここで言う「教育実践」とは、そもそもどのような意味であろうか。いつ頃から、教育実践という用語は登場したのだろうか。

中野光によれば、1920年代以前には、教育実践という言葉はみられず、教育の実際・実地教育という言葉が主流であったという¹⁸⁾。その後、教育実践という言葉は、1930年代の日本に忽然と登場する。生活綴方教育運動や「生活教育」運動等の民間教育研究運動の隆盛とともに誕生した言葉であった。例えば、生活綴方教育のリーダーであった上田庄三郎は、1934年に、教育実践という意味は、「教育の現実の中に深く徹入して、そこから新しい創造的な教育原理を打ち立てよう、実践こそ教育打開の唯一の鍵であるという実践家としての自覚からもきている」¹⁹⁾と指摘している。このように、実践には、「人間の主体性がより濃く含まれている」²⁰⁾

小論の対象である上越教師の会は、教育の現実から創造的な教育原理を導き、教育打開の道を模索してきた典型事例であり、教育実践そのものであったといえる。

3-2 江口資料の概要

1. で述べたように、貴重な一次資料が、江口の自宅に多数所蔵されていた。未公開の講演記録・実践資料・指導ノート等が含まれ、学術的価値の高いものである。だが、江口自身は高齢で健康状態もすぐれず、それらの貴重な資料が散逸する前に、整理・記録し、知的遺産として継承する必要性が生じていた。幸い、江口家の家族や元同僚・後輩の意向と上越教育大学附属図書館の協力により、江口資料の整理と公開・活用の道が開かれることとなった。付録として掲載したリストの諸論考・諸資料が、ほぼこのリスト通りのインデックスにおいて、上記図書館に所蔵され、公開される運びとなっている。

なお、全749点に及ぶ資料の内訳は次のようである²¹⁾。

I 著書 36点

ここでは、江口が執筆ないし編集した単行本を整理した。以下の3種類に分類できる。

・単著（7点）

～『村の五年生』等の著書

・編著（上越教師の会編4点）

～『生産労働を軸にした社会科の授業過程』『地域に根ざす教育と社会科』等の単行本

・共著（分担執筆25点）

～教育の専門書、講座等に依頼されて分担執筆した単行本

II 論文（雑誌・紀要等に掲載）192点

ここでは、江口が執筆した教育雑誌類を整理した。これらの中には、『カリキュラム』『母と子』『生活教育』『社会科教育』等の全国レベルの教育雑誌に執筆したもの、『教育創造』

や学校・地域の研究紀要など、ローカルなエリアの雑誌に掲載されたものが混在している。

Ⅲ 江口ノート・メディア資料 40点

ここでは、江口の活動を記録したノートやテープ資料を整理した。江口は、1冊のノートに毎日の出来事を事細かにメモしていた。子どもや教師のこと、学校の出来事、学習指導案などを詳細に記録したものである。また、様々なプリント類も添付されている。江口の実践を知る貴重な手がかりとなる資料である。ノートのほかに、講演のテープ記録やビデオ記録もある。

Ⅳ 講演資料（1985年～2001年） 325点

ここでは、江口の講演資料を整理した。江口は、主に退職後、自由な時間ができるようになると、様々な地域や団体からの要請を受け、膨大な量の講演をこなしている。講演題には共通するものも多い。これらの講演に際し、毎回、聴衆に渡すハンドアウト資料を作成するとともに、語る内容を分単位に記録した詳細なメモとして用意している。

Ⅴ 実践資料 148点

ここでは、Ⅰ～Ⅳに収まらない各種資料を整理した。研究指定の報告書、実践毎に整理した冊子（初期のものが多く）、「せんせ」（上越教師の会の会報）、公開授業時の配付資料等が含まれている。

Ⅵ その他 8点

ここでは、江口の実践について、他者が批評した論文や関係資料を整理した。

3-3 江口資料の「三層構造」

上記の江口資料は、次の「三層構造」を成す。第1は、江口の執筆・編集した著書・論文である（第1の層～著書35点、論文192点）。第2は、講演・報告資料である（第2の層～講演・報告資料325点）。第3は、実践資料・江口ノート・書簡等である（第3の層～実践資料等148点、江口ノート31冊、書簡等）。第1の層は、公刊されたものであり、活字として流通することを前提に叙述されているものである。第2の層は、聴衆を前に報告・講演したものであり、公開された情報であるが、活字として流通することを想定していないものである。第3の層は、一部公開を前提とした情報もあるが、多くは江口の自家資料に属する部分であり、公開を前提としない情報が多いといえる。第1、第2の層がオフィシャルな資料と考えれば、第3の層はインフォーマルなものであり、確定して他者に向けて表現されたものではない。

江口の実践の生成過程や表象化されていない部分を研究する場合、これら第3の層の資料群を視野におさめることが重要となる。ただ、江口のこうした一次資料には、まだ未収集の部分が少なくない。今後の収集・整理の作業が必要となっているといえる。

3-4 上越教師の会実践の時期区分と変容過程

上記した江口資料については、その量が膨大であり、今後さらに収集される部分も少なくない。そのため、江口資料を活用した本格的な研究は、今後の課題である。本項では、今後の本格的な研究に向けて、いくつかの論点を明示して、方向を模索したい。

第1に、江口および上越教師の会（以下本項では「会」と略記）実践（史）の時期区分と変容過程の評価である。

この点を、主に社会科教育に例をとって指摘してみよう。周知のように、戦後社会科教育の理念・内容・方法は大きな変容を遂げてきた。江口や「会」の実践も、こうしたマクロな変化から少なくない影響を受けている。初期の『村の五年生』における実践は、村の課題を取り上げた子どもたちの探究的な学習をベースにして、村に残る封建遺制を改革する取組として理解できる。ここには、「社会改造科」としての社会科教育のねらいが看取される。だが、その後、生産労働の視点からの社会認識の研究や学習の構造化や現代化の実践は、系統学習的な社会科教育の性格が強まってくる。さらにその後、地域に根ざす社会科の実践が精力的に取り組まれる。実践の表層に現れるこうした変容は、いかなる契機や反省に基づくのであろうか。その根底に、どのような社会科観の変化がみられるのであろうか。さらに、江口や会の実践者のあいだで、どのような整合性がはかられていたのであろうか。こうした問題意識を持って、江口や会の実践史を整理・分析することが求められている。

3-5 上越教師の会実践の成立基盤と影響力

第2は、江口および「会」の実践の成立基盤と影響力についてである。

ここでは江口と会の実践が、どのような基盤の上に成立し、また、いかなる実践に波及していったのかという点を考察することとなる。端的に言えば『村の五年生』の成立基盤として、「三つの源流」、すなわち、①郷土教育²²⁾、②綴り方教育、③コアカリキュラム活動、からの影響を検討することである。また、江口と会の実践は、その後の上越地域の諸実践に多くの影響をあたえる²³⁾。その流れは、①生活単元学習・総合学習（上越教育大学附属小学校、大手町小学校）、②作文実践（高志小学校）、③地域教材を開発した社会科教育、等多彩である。これらは、「三つの支流」として整理されよう。こうして、江口と会の実践を「本流」と位置づければ、この本流には「三つ源流」と「三つの支流」が位置づくのである。

3-6 地域教育実践（史）研究の意義

第3に、地域教育実践（史）研究の積極的な意義についてである。

戦後日本の教育の変遷をたどるとき、その背景要因として経済社会の変動や教育政治の転換を指摘することが可能である。学力低下キャンペーンや「ゆとり」教育批判という近年の教育の動向にも、経済や政治の影響をみることができる。その意味で、教育行政・政策レベルの転換は、教育外的な要因に左右されることが多い。だが、地域教育実践の世界は、地域子ども・教室・学校の現実の上に展開される。国家教育政策の視点から見ると、「地方」における「実践」という意味で、最も遠いところに位置している。だが、地域教育実践の展開場面こそが教育の「臨床場」に他ならないとも言える。そして、その「臨床場」における自律性と実践力量の形成が、教育改善の重要な拠点となる。換言すれば、「官」の政策垂れ流しに対する「民」の力による中和策が不可欠である。＜実践＞という視点から、＜政策＞や＜制度＞を検証する視点が重要なのである。

地域に限定した研究は、一般化が困難ではないかという疑問も指摘されるだろう。だが、研究対象の限定はマイナスばかりではない。「一所懸命」に実践したからこそ見えてくる世界がある。地域に根ざす教育の追究のなかに、教育現実から生成する教育理論の可能性が展望できるのである。

4. 上越教師の会実践研究の今日的意義と今後の課題

教育改革の渦の中で学校と教師がゆれている。学校制度、学校経営、教育課程・教育方法、教師教育など、改革の対象は学校教育の全範囲に及ぶ。果ては、義務教育国庫負担制度見直しや教育基本法の改定という骨格部分の「改革」にまで至る。

これらの諸改革は、従来の日本の教育を大きく変革する勢いを持って進行中である。だがこれらは、まずもって政治主導で展開される教育行政改革として遂行され、個別学校単位の教育実践の改善に結びついていない。改革施策の多くは、学校内部からみると「上から・外から」の改革圧力という面が強く、現場の教師からすると、教育現場の実状に即した改革であって欲しいという切実な願いが強い。冷静に考えれば明らかだが、「教育改革」即「教育改善」とは限らない。教育改革を教育改善につなぐには、「下から・内から」の改革と連動することが不可欠である。とりわけ、教育行政改革を教育実践改革につなぐ回路として、次の2点が重要である。

第1は、内発的改革の必要性である。ここでは、子どもの成長をめざし、学校構成員の合意と納得による自生的な改革を探究することが求められる。

第2は、教師の力量形成の課題である。特に現在、教職員管理の新たな展開や子ども・学校の「病理」現象の拡大のなかで、教師の自律的な力量形成の課題が重要となっている。改革の理念が実践者である教師の内部に点火されずして教育実践改革の実現は困難であり、改革の中で教師の意欲や力量のエンパワーが不可欠となっている。その意味で、教師の自発的な研鑽と実践の創造が、進行中の教育改革の質や方向を規定する一要因となる。

小論は、上記の第2の課題へのアプローチの一環として、戦後の時代を確かな見識をもって現場実践を創造した教師（グループ）の足跡を分析する端緒となるものである。江口及び上越教師の会は、時代や地域の変容に対応しつつ、地域に根ざした教育実践や先駆的な生活学習・総合学習の取組にみられるように、「子らと地域をみつめて」創造的な実践を構築してきた。かかる実践を創造した江口ならびに上越教師の会は、こんにち再評価が可能であり、また今後の教育実践に一定の示唆を提供するものである。

江口および上越教師の会の思想と実践は、戦後日本の教育者の良心を示すものである。同時に、今日と未来の教育実践に限りない勇気と希望と知恵を提供するものである。新資料の発掘・収集、諸資料の分析をふまえた江口および上越教師の会実践の全体像の解明、戦後教育実践史における同実践の位置づけなど、戦後教育実践の高みを構成した江口および「上越教師の会」思想と実践が、さらに研究され評価されることを望みたい。

< 謝 記 >

小論は、上越教育大学研究プロジェクト（2004-2005年度）「地域教育実践に関する総合的調査研究～『上越教師の会』関係資料の収集・分析を中心として」の研究成果の一端をまとめたものである。なお、本研究の推進に際し、多くの方のご支援を賜った。まず、江口武正氏、玲子夫人、ご長男の武彦氏、山賀昭治氏、梅沢勤氏からは、江口資料の整理・公開・活用を機会を与えていただいた。また、中野光氏（元中央大学教授）、寺田喜男氏（上越市立東本町小

学校長), 後藤清代氏(上越市立大潟町小学校長), 小林晃彦氏(上越市教育委員会指導主事)には, 研究上のアドバイスをいただいた。ここに記して深謝する次第である。

註

- 1) 先行研究としては, 社会科教育学の研究者のものが多い。主な研究として以下のものがある。岩永健司「社会認識過程における数量の把握(Ⅱ)『村の五年生』の場合」(『社会科研究』第40号)1992。吉田正生「初期社会科実践にみられる『説得技法』の研究～江口武正『村の五年生』を事例として」(『社会系教科教育研究』第4号)1992。小原友行「農村青年教師による初期社会科教育実践の授業論～相川・江口・鈴木実践の分析」(『教育方法学研究』第21巻)1995。
- 2) 松丸志摩三「あとがき」, 江口武正『村の五年生』国土社, 1992, pp.291-292
- 3) 江口武正『教職40年-私の歩いてきた道-教育への目を開いてくれたもの-』退職記念講話の記録, 1987, pp. 2-3
- 4) 江口武正『教職40年-私の歩いてきた道-教育への目を開いてくれたもの-』退職記念講話の記録, 1987, p. 3
- 5) 城戸播太郎「序」, 平野婦美子『女教師の記録』ほるぷ総連合, 1984, p. 2
- 6) 江口武正『教職40年-私の歩いてきた道-教育への目を開いてくれたもの-』退職記念講話の記録, 1987, p. 3
- 7) 江口武正『『村の五年生』が生み出されるまで』講演メモ, 1992, p. 3
- 8) 江口武正『教職40年-私の歩いてきた道-教育への目を開いてくれたもの-』退職記念講話の記録, 1987, pp. 3-4
- 9) 江口武正『教職40年-私の歩いてきた道-教育への目を開いてくれたもの-』退職記念講話の記録, 1987, pp. 4-5
- 10) 江口武正『上越教師の会回想-サークル35年の歩み-』1989, p. 2
- 11) 江口武正『上越教師の会回想-サークル35年の歩み-』1989, p.11
- 12) 阿部彰『戦後教育年表』風間書房, 2005
- 13) 江口武正『上越教師の会回想-サークル35年の歩み-』1989, p. 9
- 14) 江口武正『上越教師の会回想-サークル35年の歩み-』1989, p. 9
- 15) 江口武正『上越教師の会回想-サークル35年の歩み-』1989, pp.13-15
- 16) 江口は, 1969(昭和44)年, 刈羽郡北条町立北条中学校教頭として着任していた。
- 17) 江口武正『上越教師の会回想-サークル35年の歩み-』1989, p.19
- 18) 中野光「教師が教育実践を書くとき」(本荘正美『新たな自分に出会うとき』新読書社)1995。
- 19) 『上田庄三郎著作集』第三巻, 1977, p.303
- 20) 中野光「教師が教育実践を書くとき」(前掲)
- 21) 本研究の一環として, 江口資料の一部を冊子として作成している。すなわち, Iの分担執筆部分およびⅡの全国誌レベルの雑誌論文を集録した資料集が『江口武正「上越教師の会」教育実践資料集(第1集)』(A4版290頁, 2005.3)である。また, Ⅱの地方誌・学校紀要等の論文およびⅣ④の講演資料の一部を収録した資料集として冊子化したものが, 『江口武正「上越教師の会」教育実践資料集(第2集)』(A4版268頁, 2005.10)である。これらは, 関係各方面に配布したほか, 上越教育大学附属図書館にも所蔵されている。
- 22) 後藤清代「新潟県上越地方における郷土教育の源流と派生する三つの流れ～戦前編」(新

潟県社会科教育研究会『社会科研究紀要』No.22) 1987.

23) 後藤清代「合科・総合学習を生み出した土壌」『上越における合科・総合学習の歩みと生活科の構想』（上越教育大学学校教育研究センター）1988.

江口武正年譜

暫定版(2005.11現在)

西暦	年号	満年齢	経歴
1926	大正15	0	・10月30日生まれ。新潟県中頸城郡保倉村上吉野(現・上越市上吉野)にて出生。(父武治・母チトセの五男、五女の長男)
1941	昭和16	14	・新潟県中頸城郡保倉村上吉野尋常高等小学校高等科を卒業。新潟県高田師範学校予科一年に入學。
1944	昭和19	17	・本科一年となり、太平洋戦争の敗色に伴い、学業が停止され学徒動員として日本通運高田支店(一か月)、日本曹達二本木工場(三か月)、富山市富士越工場(一年)に勤務する。
1945	昭和20	18	・7月27日、軍隊の召集令状を受け、8月2日松本市歩兵連隊に二等兵として入隊。8月15日に終戦を迎え、8月31日に除隊し帰郷。10月30日、新潟第二師範学校の再開に伴い復学。
1947	昭和22	20	・新潟第二師範学校本科三年を卒業。(学業成績優秀賞を受賞) ○新潟県中頸城郡津有村立戸野目国民学校訓導として着任(3月31日～俸給は390円)。校長池野倅治の示唆により、県内初めての学級PTAを結成し、11月の県教育指定校の発表会「新教育の諸問題と我が校の実践報告」で発表する。
1949	昭和24	22	・全国社会科実践記録に応募して入選する。(四年生単元「収穫」)
1951	昭和26	24	・第一回全国教育研究大会(日光市)に県代表として出席し「学習計画の批判とその再構成を如何にするか」を発表し、分科会の司会をつとめる。
1952	昭和27	25	・コア・カリキュラムを推進し、「地域性に立つ戸野日の教育」(通称、戸野目プラン)の完成の中心的役割を果たす。
1953	昭和28	26	・11月3日、中頸城郡津有村大字四ヶ所の片桐喜一・梅野の次女玲子と結婚する。
1954	昭和29	27	・梅沢勤・山賀昭治らと「若い教師の会」(昭和32年に上越教師の会と改称)を結成し、会の会長となる。
1955	昭和30	28	・3月19日、長男武彦が誕生する。 ・全国青年教師連絡協議会の委員として、夏期合宿研究会を妙高温泉に誘致開催し、大会運営委員長を勤める。 ・第四回全国教育研究大会(長野市)に県代表として出席「学級の仲間づくり」を発表し、分科会のまとめ役をつとめる。
1956	昭和31	29	・農村社会科の実践「村の五年生」(新評論社)を出版し、全国に大きな反響を呼び起こす。 ・NHK ラジオ第一にて、父母・子供とともに「村の五年生の実践をめぐって」を全国放送する。(放送時間30分)
1957	昭和32	30	・10月1日に、西城町四丁目100番地の1に、塚田雷四郎より、古屋と購入する。
1958	昭和33	31	○新潟県高田市立大手町小学校教諭として着任する。
1959	昭和34	32	・第七回全国教育研究大会(別府市)に県代表として出席し、社会科部会で「問題解決学習の問題点」を発表する。 ・七月六日、次男正彦が誕生する。
1962	昭和37	35	・新潟県民族資料緊急調査員を委嘱され、約一年にわたり農業単作地帯の研究にあたり、これをまとめる。 ・郷土史「子どものための高田市史」を編集・執筆。(編集委員長)
1963	昭和38	36	・県教育課程資料作成委員(社会科)を委嘱される。
1964	昭和39	37	・県教育課程資料作成委員を委嘱される。 ・東京教育大学開設の昭和39年度「指導主事課程」を終了する。
1965	昭和40	38	・「上越教師の会」編著書『生産労働を軸とした社会科の授業過程』(明治図書)の編集・執筆代表者。 ・高田市立教育センター設置に伴い、研究部長となる。 ・県教育課程社会科研究委員を委嘱される。 ・高田市立大手町小学校の研究主任として(39年より)名古屋大学教授広岡亮蔵の指導を受け、「学習指導の現代化」を推進し、全国公開研究会及び共同研究の著書の出版の準備を進める。 ・高田市立教育センターの主任所員となる。(研究部長兼任) ・新潟大学高田分校において「社会科研究講座」を担当し、学生に三回にわたって講義をする。
1966	昭和41	39	○直江津市教育委員会指導主事に任命される。 ・大手町小学校の全国公開研究会「学習指導の現代化」において、全体会のパネルディスカッション「現場の教育研究をどうすすめるらよいか」の司会をつとめる。
1968	昭和43	41	・直江津市女教員会の要請により、指導主事としては初めての公開授業を行う。「三年社会～単元「直江津の移りかわり」
1969	昭和44	42	○刈羽郡北条町立北条中学校教頭として着任する。 ・刈羽郡教頭会の会長となる。 ・名古屋大学教授・広岡亮蔵、東洋大学教授・恩田彰の指導を受け、「創造性を育てる学習指導」を推進し、44年度から46年度まで小冊子を刊行する。
1971	昭和46	44	・「上越教師の会」編著書『生産労働を軸とした社会科教育の現代化』(明治図書)を発行する。(編集・執筆代表者)

			<ul style="list-style-type: none"> ・11月1日、現在地に家屋を新築する。
1972	昭和47	45	<ul style="list-style-type: none"> ・北条中学校寄宿舎において、3月9日心筋炎にて倒れ、刈羽郡病院に救急車にて運ばれ一命をとりとめる。(入院21日間) ○東頸城郡浦川原村立月影小学校長として着任する。 ・東頸城郡校長会調査研究委員及び委員長(48～49年度)として、「東頸の教育事情」を浮きぼりにし、これをまとめる。 ・浦川原村社会教育委員、浦川原村公民館運営審議委員会委員を委嘱される。 ・全国的に先がけて研究実践を始めた、浦川原村生涯教育推進委員会の委員長を委嘱され、これを推進する。
1973	昭和48	46	<ul style="list-style-type: none"> ・「地域に根ざした教育」の一環として、ノーカバンデーを実施し、各方面に注目される。 ・同じく百周年の記念行事として、校舎裏に、子ども遊園地・日本庭園・交通公園・教材用植物園を造り、11月6日盛大に記念式典を行う。
1975	昭和50	48	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK教育テレビにて「村の五年生」～戦後の教育遺産～を立教大学文学部長濱田陽太郎教授(現学長)と対談し、全国に放映する。(放映時間25分)
1976	昭和51	49	<ul style="list-style-type: none"> ・国立教育研究所の藤田畠二室長及び大学教授6名、月影小学校のノーカバンデーを中心とする「地域に根ざした教育」を視察されるために来校される。 ・NHKラジオ第一にて、民話「サルとカニ」を県内放送する。(放送時間10分) ○新潟県教育委員会指導主事・中越教育事務所勤務を命ぜられる。 ・「上越教師の会」の講演会において「戦後社会科の移り変わり」を講演する。(上越市高田館)
1978	昭和53	51	<ul style="list-style-type: none"> ・月影小学校の実践をまとめ「地域に生きる学校」(明治図書)を発行する。 ○西頸城郡名立町立名立中学校長として着任する。 ・「近代日本教育の記録」上・中・下(NHK出版協会)の下に、「戦後教育」の七つの教育の記録の一つとして「村の五年生」が収録される。 ・名立町社会教育委員、名立町公民館運営審議委員会に委嘱される。 ・昭和54年度の名立中学校・名立南中学校の統合のため、校舎の建設、校旗・校章の制定及び生徒・父母の交流に尽力する。
1979	昭和54	52	<ul style="list-style-type: none"> ○中頸城郡大潟町立大潟町中学校長として着任する。 ・大潟町社会教育委員、大潟町公民館運営審議委員、給食センター運営委員に委嘱される。
1980	昭和55	53	<ul style="list-style-type: none"> ・サークルの結成20周年を記念して「子らと地域を見つめて」～サークル20年の歩み～(山田商会)を出版する。(編集・執筆代表者) ・新潟県中学校長会幹事となり、年表編集委員を兼務する。 ・大潟町教育研究会会長となる。
1981	昭和56	54	<ul style="list-style-type: none"> ・県教育委員会委託「学習指導改善への工夫と実践例」(中学校編)に「社会/学習課題のあり方」を執筆。(論文・実践記録-共同執筆) ・NHKラジオ特集「戦後の新教育を見直す」(四回シリーズ)の第2回(学校主体の教育)、第4回(ゆとりと充実の教育)で全国に放送する。(各10分)
1982	昭和57	55	<ul style="list-style-type: none"> ・NHK教育テレビにて「校長教壇に立つ」を全国に放映する。(放映時間25分) ・「上越教師の会」著「地域に根ざす教育と社会科」(あゆみ出版)を出版する。(編集・代表執筆)
1985	昭和60	58	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生君ならどう生きるか」～全校朝会の講話～(民衆社)を発行する。 ・NHK総合テレビの全国ネットワークレポート「先生がんばっていますか」(80分番組)に現職校長を代表して出演する。(出演時間17分～大潟町中学校より生中継をする) ・大潟町中学校在任6年、昭和57～58年は県内及び全国的に校内暴力の嵐が吹き荒れ、隣接校にも及んだが、教師集団と父母・地域の密接な協力と努力により、一件の校内暴力もなく、奇跡の学校と言われた。 ○上越市立南本町小学校長として着任する。 ・上越市学校図書館協議会会長、上越地区小中学校学校図書館協議会会長、県小中学校学校図書館協議会副会長となる。 ・上越教育大学学校教育学部の非常勤講師に採用される(以下平成8年度まで続く)。上越市立図書館協議会委員に任命される。新潟県青少年健全育成講師団の一員に任命される。
1986	昭和61	59	<ul style="list-style-type: none"> ・中学一年の道徳副読本『考える道徳』(日本標準)に『中学生君ならどう生きるか』の「へその緒の話」が採用・掲載される。 ・「上越市学校教育研究会」の会長となる。 ・新潟県厚生財団の評議員となる。 ・日本学校教育学会第一回研究大会の全体会において「教育の現代化理論の有効性と限界」を発表する。(上越教育大学) ・「教師・父母のための教科書問題」(民衆社)「今こそ教科書研究」を執筆。
1987	昭和62	60	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生君ならどう生きるか」(民衆社)の姉妹編として『小学生君ならどう学ぶか』～全校朝会の講話～(民衆社)を出版する。 ・教職40年の最後の授業として「戦争中の国民生活」の特別公開授業を行う。 ○3月31日定年退職をし、南本町小学校を最後に教職40年の幕を閉じる。 ・「教職40年その経歴と遺産」の小冊子を発行する。 ・昭和29年来33年間会長を務めた「上越教師の会」の会長を辞職し、後進に道をゆずる。(後任会長山賀昭治)

			<ul style="list-style-type: none"> ・第1回渡辺教育特別賞を受賞する。(「地域に根ざした教育と社会科」「児童・生徒とともに生きる学校経営」の多年の功績により) ・NHK テレビシンポジウム「新時代の教育とは」(第一)に小中高等学校の現場代表として、文部省・大学教授・評論家とともに出席し全国放映をする。(放映時間90分)
1988	昭和63	61	<ul style="list-style-type: none"> ・日本赤十字社新潟県支部より新潟県青少年赤十字業務の非常勤嘱託を受ける。(以後4年間) ・「上越教師の会」の昭和63年度総会において、記念講演「教職40年私の歩いてきた道」を行う。(高陽荘) ・久比岐野書道会の理事及び視心展常任委員に委嘱される。 ・上越教育大学の大学祭における記念講演を依頼され「大学生君ならどう学ぶか」を講演する。(上越教育大学)
1990	平成2	63	<ul style="list-style-type: none"> ・「上越教師の会」の薦めにより『上越教師の会回想』-サークル35年の歩み-を執筆し、出版してもらう。 ・朝倉隆太郎著「地域に学ぶ社会科教育」(東洋館出版社)の実践編の企画・編集及び「社会科教育実践と地域学習指導」を執筆する。
1991	平成3	64	<ul style="list-style-type: none"> ・「現代社会科実践講座」-全21巻-(現代社会科教育実践講座刊行会)に「上越教師の会」を執筆。(第1巻)
1992	平成4	65	<ul style="list-style-type: none"> ・中央大学教授中野光のご尽力により【村の五年生】が36年ぶりに国土社から再出版される。 ・「上越市史」-普及版-(東京法令)が四年がかりで完成し出版される。(編集委員長)
1993	平成5	66	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土史「名立町史」の編集専門委員長及び編集委員を委嘱される。
1994	平成6	67	<ul style="list-style-type: none"> ・中央大学教授中野光のご尽力により-「教師と父母へのメッセージ」(ゆい書房)を出版する。(3月10日) ・5月1日「上越教師の会」の、結成40周年を迎え、記念式典を行う。当日は中央大学教授中野光の講演及び、江口の著書「教師と父母へのメッセージ」の出版記念会も行われた。
1995	平成7	68	<ul style="list-style-type: none"> ・上越市長宮越肇及び上越市教育長齋藤弘に依頼され、8月2日9時30分より、「リージョンプラザ上越」において、市内の五・六年生児童約300人に「戦争の悲惨さと平和の大切さ」というテーマで、授業形式の講話を45分間行う。その後、宮越市長・羽島賀津子・江口の三人が、パネリストとして、児童たちとの「話し合い広場」に出場し、一時間話し合う。 ・上越市が戦後50年記念誌「五十年の歩み」-写真でつづるあの日・あの風景-を発刊した。その最後の234ページに、8月2日の「リージョンプラザ上越」における、江口の授業形式の講話及び、児童との「話し合い広場」が写真で紹介される。
1996	平成8	69	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和60年より、「上越教育大学非常勤講師」として12年間勤務し、9月5日をもって終了した。その日の夜本町七丁目の瀬川料理屋へ、上越教育大学の加藤章学長・二谷貞夫教授夫妻・山本友和助教授夫妻・田部俊充講師が、私のみでなく家内も招き、盛大な送別会をして下さった。 ・江口が編集委員長として、他の9人の編集委員と力を合わせ、「直江津捕虜収容所」の記念誌としての、「太平洋にける橋」-捕虜収容所の悲劇を越えて-を完成して、10月3日に発行する。この記念誌は、戦争中全国に91か所あった捕虜収容所での、初めての著作である。
1997	平成9	70	<ul style="list-style-type: none"> ・上越教育大学図書館へ、私の所有本の中より、「日本生活文化史」(1巻~10巻)その他合わせて118冊を5月6日に、学術研究及び教育資料として寄贈する。 ・平成5年4月に開始した、「名立町史」の編さん専門委員長として18人の委員と協力して、4年の歳月をついやし、3月30日に発行した。そして、この「名立町史発刊記念式典」が、5月26日に盛大に行われた。(名立町公民館) ・県教職員に依頼され、「平和を守る」-直江津捕虜収容所の悲劇を越えて-(小・中学生用平和教育資料)を、編集委員長として六名の編集委員と協力して、10月1日に発行する。 ・上越市教育委員会の依頼により、平和を考える「社会学習」として、保育小学校・小猿屋小学校・北諏訪小学校において、11月下旬より平成10年の1月にかけて、「戦争の悲惨さと平和の大切さ」という授業と、「私の学徒動員と戦争体験談」という講話を行う。
1998	平10	71	<ul style="list-style-type: none"> ・柿崎町・大潟町・吉川町の三町の教職員に依頼され、2月20日「すぐれた学級づくりと授業をめざして」という講演をする。(柿崎町出羽「魚中」大会議室-120名参加) ・上越教育大学図書館へ、所有本の中から二回目として、有名な学者・教育実践家の著書70冊、教育雑誌211冊(合計281冊)を、4月30日に、学術研究・教育資料として寄贈する。 ・4月14日、長崎県の「ハウステンボス」及び長崎市内を見学し、長崎市にて宿泊。15日大阪府豊中市の長男武彦のマンションに宿泊。広島市を見学して、17日自宅に帰る。 ・東京都江東区に住んでいる次男正彦の妻の父母とともに、7日間のハワイ4島めぐりをする。5月22日に出発し、ハワイ島・マウイ島・カウアイ島・オアフ島の4島を見学し、太平洋戦争のはじまりをしみじみと感じた。そして28日の夜遅く帰宅した。 ・8月初旬、東京都赤坂のドイツ文化会館より、私たちが編集執筆した、「太平洋にける橋」を送ってほしいとの電話があり、この著書と「平和をまもる」(小・中学生用平和教育資料)を、ともに送ったところ、日本からドイツに送る本の中から特に選ばれて、ドイツのベルリンにある国立国会図書館に送付され、蔵書となった。(両著書とも江口が編集委員長)

- 【参考・引用等】
- ・江口武正『私の年譜』(1998.10)
 - ・江口武正『私の年譜』(1994.4)
 - ・江口氏の自筆ノート(江口氏所蔵ノート)
 - ・「若い教師の会」会議記録(江口氏所蔵ノート)

江口武正教育実践資料（江口資料）リスト

暫定版（2005.11現在）

1 著 書

36点

1-単 著

NO	タイトル	著 書	出版社	出版年	備 考
1	村の五年生	江口武正著	新評論社	1956	全292頁
2	村に生きる学級経営	江口武正著	明治図書	1959	全271頁
3	地域に生きる学校（校長で学校変わる2）	江口武正著	明治図書	1978	全237頁
4	中学生 君ならどう生きるか～全校朝会の講話	江口武正著	民衆社	1985	全293頁
5	小学生 君ならどう学ぶか～全校朝会の講話	江口武正著	民衆社	1987	全276頁
6	上越教師の会回想～サークル35年の歩み～	江口武正著		1989	全25頁（自費出版）
7	教師と父母へのメッセージ	江口武正著	ゆい書房	1994	全188頁

2-「上越教師の会」編著

NO	タイトル	著 書	出版社	出版年	備 考
8	生産労働を軸にした社会科の授業過程	川合章・上越教師の会著	明治図書	1965	全251頁
9	生産労働を軸にした-社会科教育の現代化	川合章・上越教師の会著	明治図書	1971	全204頁
10	子らと地域を見つめて～サークル20年の歩み	新潟県上越教師の会著		1977	全114頁（自費出版）
11	地域に根ざす教育と社会科	新潟県上越教師の会編	あゆみ出版	1982	全309頁

3-分担執筆

NO	タイトル	著 書	出版社	出版年	備 考
12	現代日本の教師（初等教育新書12）	木下一雄他編	東洋館出版	1954	「農村の青年教師」（78-86頁）
13	公開授業のやりかた・みかた	樋口澄雄他編	明治図書	1955	<若い私たちはこう思う>（211-215頁）
14	小学校社会科学習指導細案3・4学年用	村井実他編	牧書店	1957	「中江用水」（321-330頁）
15	小学校現場の理科教育4～教育論	今井馨次郎他編	春秋社	1957	「農村における理科と社会科の関係と問題点」（56-63頁）、中村幸一・山賀昭治との共著
16	教室の技術・5年生	日本生活教育連盟編	誠文堂新光社	1958	「学校や地域とのむすびつき」（235-260頁）
17	生活綴方事典	日本作文の会編	明治図書	1958	「生活綴方による社会調査」欠
18	国語五年上 小学校検定教科書	武者小路実篤他編	二葉株式会社	1958	「研究発表 中江用水の研究」（88-95頁）
19	小学校社会科指導細案3・4年	松村謙他編	明治図書	1959	「鉄道とトラック輸送」（240-259頁）、下村省一との共著
20	授業の技術2～発問と助言	平井昌夫他編	明治図書	1961	「社会科高学年の発問と助言の方法」（122-142頁）
21	私たちのちえ～きみもこの中にある 1・2年生	子どもの生活研究会編	宝文館		「ほくもおげんきです」（184-493頁）
22	私たちのちえ～きみもこの中にある 3・4年生	子どもの生活研究会編	宝文館	1966	「あだな」欠
23	学習指導の現代化	大手町小学校著	明治図書	1966	「理論編」及び「実践編～典型的事実に基づく憲法学習
24	発見学習	広岡亮蔵編	明治図書	1968	「戦争への道と国民生活～（小6年）典型的事実を中心とする学習の主体化」（100-115頁）
25	教育研究サークルの思想	海老原治善編	明治図書	1968	「時代の潮流に卒す教師」（116-129頁）
26	講座・学習指導の近代化・下巻 教育内容の構造化	大野連太郎編	明治図書	1969	「Ⅲ単位教材の構造化 三 社会科」（161-177頁）
27	社会科の小集団思考学習	木原健太郎編	明治図書	1972	「三 話し方・聞き方・発表のさせ方」（57-66頁）
28	授業研究大事典	広岡亮蔵編	明治図書	1975	「教科書の位置」「参考書の位置」「学習ノート」（144）「定着」「ドリル学習」（148）「実践記録」（132）「観察・調査の指導」（138）欠
29	新潟のむかし話	新潟県小学校図書館協議会編	日本標準	1976	サルとカニ（131-136頁）、ほうさんになった大どろぼう（218-224頁）
30	地域に根ざした教育 寒川教授退官記念論集	前田幹他編	実業之日本社	1977	「村に生きる学校-地域に根ざした教育実践」（34-43頁）
31	歴史研究と社会科教育 中村幸一教授退官記念論集	中村幸一教授退官記念事業会編	東京法令出版	1977	「実践に生きる中村先生の教え」（336頁）
32	実践校長学入門・第5巻・校長と創造的教育活動	教育情報センター編	明治図書	1979	「七 勤労の体験的活動の構想と展開」（125-139頁）
33	高田分校30年史	歌代勤編	新潟大学高田分校編	1981	「現場教師の実践を支えた新潟大学高田分校」（166-170頁）
34	教師・父母のための教科書問題	日本生活教育連盟編	民衆社	1981	「今こそ教科書研究を」（200-202頁）
35	現代社会科教育実践講座	朝倉隆太郎（編集代表）	ニチブン	1991	第4章社会科教育40年の成果に学ぶ（第4節）「上越教師の会」（236-245頁）
36	地域に学ぶ社会科教育	朝倉隆太郎編	東洋館出版社	1990	「社会科教育実践と地域学習」（99-106頁）「おわりに」（247頁）

2 論文(雑誌・紀要・広報・通信等に掲載された文献)

192点

NO	タイトル	掲載誌	掲載年月	掲載頁
1	中江用水をめぐる	四年のカリキュラム7月号	1950.7	pp.42-43
2	日常生活学習の一分野として	カリキュラム7月号, 誠文堂新光社	1951.7	pp.65-68
3	表面を美しく滑べる前に	カリキュラム6月号, 誠文堂新光社	1952.6	pp.74-75
4	地域性に立つ学習指導	中部教育 No. 4 中部地区教育研究会機関紙	1953.3	pp.27-29
5	社会科学学習を前進させるためのメモ	教育科学1月号, 教育科学研究所	1954.1	pp.42-47
6	貧農の子と地主の子	カリキュラム2月号, 誠文堂新光社	1954.2	pp.74-75
7	社会科学の改善問題をめぐって	5周年記念誌, 中部教育 中部地区教育研究会機関紙	1954.3	pp.26-31
8	職員の数と部の数	カリキュラム4月号, 誠文堂新光社	1954.4	pp.77-79
9	越後米の展開と指導の実際	臨時増刊 教育 No.35, 国土社	1954.7	pp.69-79
10	社会科学学習をどう進めるか-雑然と考えていること-	中部教育 No. 6 中部地区教育研究会機関紙	1955.3	pp.56-58
11	ひざつきあわせて	日本 P.T.A. 7月号, 日本母性文化協会	1955.7	pp.14-19
12	二学期の小学生	母と子9月号, 蒼生社	1955.9	pp.9-11
13	おべっかをつかう子	母と子11月号, 蒼生社	1955.11	pp.48-49
14	問題解決学習の問題点	学校教育, 広島大学附属小学校学校教育研究会	1956.1	pp.46-48
15	「村の五年生」の出版に当たって	二一会報4号	1956.2	pp.9-10
16	仲間づくりの仕事を力強く推進めよう	二一会報 十周年記念号	1956.8	pp.55-56
17	親子関係指導の記録	社会科研究9月号, 小学館	1956.9	pp.70-74
18	人物をどう取り扱うか-小学校の場合-	教育創造11月号, 高田教育研究会編	1956.11	pp.16-20
19	社会科学の指導計画の改訂にあたって	高田市教育課程基底計画書 小学校(社会科) 高田市教育委員会 高田市学校教育研究会	1962.5	pp.1-2
20	農村社会科と統計○学習の思い出から拾う◇	農林統計調査, 農林統計協会	1957.1	pp.36-37
21	(1)作文による評価の重要性	カリキュラム3月号, 誠文堂新光社	1957.3	pp.74-75
22	アンケート 新年度の計画と要望	新潟県教育月報4月号	1957.4	p.5
23	私たちの生活記録 細々とした歩みの中から	小三教育技術4月号, 小学館	1957.4	pp.58-60
24	教科としての社会科学の実践	教師の友56号	1957.7	pp.19-23
25	母の問題・子の問題「宿題がなくても勉強する子に」<こたえ>	母と子10号, 蒼生社	1957.10	pp.60-62
26	梅沢君の「かべのない学級」づくり	カリキュラム10月号, 誠文堂新光社	1957.1	pp.78-79
27	われわれは「道徳」をこううけとめる	カリキュラム1月号, 誠文堂新光社	1958.1	pp.54-55
28	小学三年生の最後の勉強	母と子3月号, 蒼生社	1958.3	pp.28-31
29	「優等賞」をめぐる	教育創造3号, 高田教育研究会編	1958.3	pp.24-28
30	社会科学で育った子どもたちの長短をみる 小学校の子どもたち	社会科指導4月号, 小学館	1958.4	pp.39-43
31	母の問題・子の問題「クラスの委員に落選するのは貧しいためか」	母と子6月号, 蒼生社	1958.6	pp.59-61
32	地域ととりくむ学級の記録-三年生の指導点をとらえる- 農村 まずしっかりと手をむすぶ	小三教育技術8月号, 小学館	1958.8	pp.16-19
33	新潟県上越教師の会の歩みと問題点	カリキュラム8月号, 誠文堂新光社	1958.8	pp.10-14
34	高田市と社会科学	社会科指導9月号, 小学館	1958.9	pp.84-87
35	農村の子どもたち	教育科学12月号, 明治図書	1958.10	pp.44-55
36	親とともに こころみ二	カリキュラム臨時増刊, 誠文堂新光社	1958.10	p.105
37	教師は戦後の農村をどう分析するか	カリキュラム3月号, 誠文堂新光社	1959.3	pp.83-84
38	村の五年生-農村社会のあゆみとその検討-	社会科指導8月号, 小学館	1959.8	pp.94-103
39	事実をたしかめることから<道徳指導の-コマ>	母と子9月号, 蒼生社	1959.9	pp.57-60
40	生産技術と社会認識(社会科)との関連	生活教育2月号	1960.2	pp.9-15
41	6年生の勉強	母と子7月号, 蒼生社	1960.7	pp.22-25
42	古き会員の顔をみつづる	教科の役割と方法の基本問題, 日本生活教育連盟編	1960.8	p.191
43	サークルの悩みと問題点	生活教育8月号	1960.8	pp.18-19
44	郷土学習がねらうもの-小学校の社会科学のバックボーンとして-	総合教育技術9月号, 小学館	1960.9	pp.57-58
45	共同研究 低学年の農業学習	生活教育11月号	1960.11	pp.41-55
46	愛読書の広場 S君の病気をめぐって	生活教育2月号	1961.2	pp.75-77
47	<座談会>教育実践の方向をたしかめる	研究紀要 第九集 高田市学校教育研究会	1961.3	pp.4-7
48	科学的な社会認識を育てるための歴史学習の進め方	研究紀要 第九集 高田市学校教育研究会	1961.3	pp.13-19
49	昭和三十五年度役員名簿 企画委員 江口武正	研究紀要 第九集 高田市学校教育研究会	1961.3	p.72
48	三十代教師になって思うこと	二一会報十五周年記念号	1961.8	p.51
49	小学二年生の学習(1)	母と子8月号, 蒼生社	1961.8	pp.25-29
50	小学二年生の学習(2)担任教師からおかあさんがたへ	母と子9月号, 蒼生社	1961.9	pp.26-29
51	共同討議 子どもを生かす学級通信	生活教育12月号	1961.12	pp.98-103
52	生産労働の科学的認識の順次性とその実践	生活教育1月号	1962.1	pp.33-45
53	低学年社会科学問題をめぐって	みんかんきょういく, にいがたけんきょうしのかい	1962.5	pp.10-21
54	学級生活の中に育つ道徳的心情	道徳の時間6月号, 明治図書	1962.6	pp.42-48
55	学級会活動の実際(中学年)	季刊 教育創造13, 高田教育研究会編	1962.7	pp.33-38
56	はげましあいながらの助け合い学習	母と子7月号, 蒼生社	1962.7	pp.8-13

57	編集委員 高田市立大手町小学校 江口武正	子どものための高田市史	1962. 9	p.134
58	文学にあらわれた現代オランダの子ども像	生活教育11月号	1962.11	pp.93-103
59	雪あそび	小三教育技術1月号 小学館	1963. 1	pp.48-49
60	生産労働を中核とする社会科の内容構造及び科学的認識の順次性とその実践	研究紀要 第11集 高田市学校教育研究会	1963. 3	pp.11-18
61	「市役所」学習のひとつま - 政治分野・三年 -	生活教育4月号	1963. 4	pp.70-80
62	仲間学習で心配なこと	母と子8月号, 蒼生社	1963. 8	pp.26-28
63	社会科学習と教科書	生活教育9月号	1963. 9	pp.11-13
64	授業分析を中心にした社会認識過程の研究(社会科部)	研究紀要 第12集 高田市学校教育研究会	1964. 3	pp. 8-14
65	思考を高め社会認識をよりたしかにする発問と助言のあり方	教育実践研究集録第2集, 新潟県教育研究所	1964. 3	pp.47-52
66	新学期をむかえる私のビジョン その3	生活教育4月号	1964. 4	pp.58-59
67	上越プランの具体像	生活教育7月号	1964. 7	pp.66-77
68	私たちの学校の授業研究 思考を高める集団学習と個別学習の相補を求めて	生活教育11月号	1964.11	pp.59-66
69	労働を中心にした授業展開案 小学校三年での扱い方	社会科教育11月号, 明治図書	1964.11	pp.67-73
70	教育研究雑考	廿二会研究集録第一集, 昭和22年3月卒業生	1964.12	pp.55-56
71	年間プラン編成の重点をどこにおくか 小学校低・中・高学年(2)	社会科教育4月号, 明治図書	1965. 4	pp.80-86
72	学習指導改善のためのメモ	新潟県教育月報 NO.175	1965. 4	pp.45-49
73	新潟と高知の米づくり	生活教育5月号臨時増刊	1965. 5	pp.104-111
74	未来社会のイメージが描ける子どもに	社会科教育6月号, 明治図書	1965. 6	pp.71-75
75	子ども研究の新しい視点-現代子ども研究の歩みを通して考える-	生活教育11月号	1965.11	pp.102-107
76	研究紀要第1集 社会科・理科の学力と学習指導に関する研究 - 全国学力調査の結果とその分析的研究 -	新潟県高田市立教育センター	1966. 3	pp. 5-49
77	教室の変ぼうと教育の質	生活教育5月号	1966. 5	pp. 8-14
78	学習公開・研究発表会要項 学習指導の現代化 - 教材構造と学習過程の追求 -	新潟県高田市立大手町小学校	1966.11	pp. 4-6, pp.15-22, p.64, p.71
79	子どもの生活台に切り結ぶ社会科	生活教育12月号, 新潟上越教師の会江口・山賀・杉山	1966.12	pp.18-28
80	学習指導の現代化をめざして	授業研究1月号, 明治図書	1967. 1	pp.57-59
81	教育課程の改善と現場の問題点	教育新報 教育計画特集号	1967. 4	p. 1
82	高田平野の米作地帯	生活教育別冊 地域の現実と社会科の授業	1967. 9	pp.15-27
83	理解と愛情と信頼感	学校運営研究6月号, 明治図書	1968. 6	pp.65-68
84	教材構造と認識過程	教育創造36号, 高田教育研究会編	1968. 7	pp.14-21
85	教育課程問題における管理と指導	学校運営研究1月号, 明治図書	1969. 1	pp.24-29
86	新潟県における社会科研究授業のテーマ	「社会科教育」10月号, 明治図書	1969. 1	pp.87-89
87	あとがき	昭和44年度 学校の管理運営-問題点と研修資料-第2集, 刈羽郡校長会刈羽郡教頭会	1969.12	p.80
88	あとがき	昭和45年度 学校経営と校長・教頭の指導性-その問題点と研修資料-第3集, 刈羽郡校長会刈羽郡教頭会	1970. 2	p.57
89	社会科教育に今一步の前進を - 学習指導の深まりを求めて -	社会科研究紀要 第5集 新潟県社会教育研究会	1970. 3	pp.78-90
90	授業で「創造性」を開発することは可能か	現代教育科学8月号, 明治図書	1970. 8	pp.55-58
91	たてま論・方法論的すぎないか	社会科教育3月号, 明治図書	1971. 3	pp.49-53
92	研究紀要[第2集] 創造性を育てる学習指導 学習過程の追求を通して	北条町立北条中学校	1971. 3	pp. 1-20 pp.50-61
93	書評, 『基本的能力を育てる社会科授業』 栃木県小学校社会科教育研究会編	社会科教育5月号, 明治図書	1971. 5	p.121
94	卒業三年目に講演	廿五周年記念誌 廿五年の歩み, 公孫同窓会廿二会	1971. 8	p. 6
95	書評, 静岡大学附属浜松中学校著「教材の特質にそくした学習過程のくふう」	授業研究11月号, 明治図書	1971.11	p.116
96	問題の構造が把握できない場合の指導対策	新潟県北条中学校社会科研究部<江口武正・清水万蔵・荒川晃>, 社会科教育1月号, 明治図書	1972. 1	pp.41-45
97	校務分掌の責任分担をめぐる問題処理	学校管理研究資料1月号, 明治図書	1972. 1	pp.41-47
98	家庭教育と父母のありかた	PTA だより 愛の城 北条中学校	1972. 3	p. 7
99	研究紀要[第3集] 創造性を育てる学習指導 学習過程における内部手順の追求を通して	柏崎市立北条中学校	1972. 3	
100	調査研究副委員長 東頸城郡蒲川原村立月影小学校長 江口武正	東頭の実情 - 変わりゆく地域と教育 -	1972.11	p.104
101	生活に根ざす教育を模索したのは	生活教育1月号	1973. 1	pp. 5-9
102	隣地へ赴任する M 君へ	生活教育3月号	1973. 3	pp.54-56
103	まえがき-研究紀要第1集の発刊に際して-	研究紀要[第1集]目を輝かせて学ぶ子どもへの道 課題に立ち向かう学習指導のあり方, 東頸城郡蒲川原村月影小学校	1973. 3	
104	現代化への要請に応じられる組織	学校運営研究5月号, 明治図書	1973. 5	pp.83-88
105	まえがき-研究紀要第2集の発刊に際して-	研究紀要[第2集]目を輝かせて学ぶ子どもへの道 地域に根ざした教育実践, 東頸城郡蒲川原村月影小学校	1973. 1	

106	「月影の歴史」の発刊について	月影の歴史	1973. 1	
107	教育研究調査資料 No.14 東頸の教育実情 -地域に根ざした教育-	東頸郡都校長会 東頸郡PTA 連絡協議会 東頸郡へき地教育振興会	1973.11	
108	目を輝かして学ぶ子どもへの道	廿二会報第44号	1973.12	p. 6
109	事例・懲戒の事例に学ぶ教師のあり方	学校管理研究資料7月号, 明治図書	1974. 5	pp.111-117
110	“地域に根ざした教育実践の中で”	生活教育7月号	1974. 7	pp.56-61
111	教頭法制化の実現に思う	初等教育No.40, 新潟県小学校長会誌	1974. 9	p.37
112	工業の発達-小学校五年-(1)	生活教育10月号	1974.10	pp.56-63
113	工業の発達-小学校五年-(2)	生活教育11月号	1974.11	pp.30-43
114	目を輝かして学ぶ子どもを育てるための講話	学校運営研究11月号, 明治図書	1974.11	pp.120-121
115	わたしたちのめざすもの -まえがきにかえて-	研究紀要 [第3集] 目を輝かして学ぶ子どもへの道 地域に根ざした教育実践の深まり 東頸郡浦川原村月影小学校	1975. 3	
116	廿二会報・50号発行に想う	廿二会報第50・記念号	1975. 7	
117	「わかる授業」の基底になるもの	生活教育1月号	1975. 1	pp. 5-6
118	地域に根ざした教育実践を	現代教育科学3月号, 明治図書	1975. 3	pp.67-71
119	上越教師の会で考えられた社会科内容構成	社会科教育7月号, 明治図書	1975. 7	pp.53-63
120	小学生の夏休み 地域に根ざした夏休みへの試み	母と子8月号, 蒼生社	1975. 8	pp.10-13
121	「学校は私たちのもんだもん」	「新潟県教育月報」8月号 新潟県教育委員会	1975. 8	p.39
122	地域に根ざし、子どもたちを主人公にする学級づくりと学校行事	編集部 生活教育9月号	1975. 9	pp.12-20
123	<特集>生き生きノカバンデー -その教育的意味と三か年の歩み-	教育創造, 新潟大学教育学部附属高田小学校 高田教育研究会編	1975.11	pp. 6-11
124	地域に根ざした教育実践の深まりを求めて	初等教育No.43, 新潟県小学校長会誌	1975.12	pp.35-37
125	わたしたちのめざすもの -まえがきにかえて-	研究紀要 [第4集] 目を輝かして学ぶ子どもへの道 地域に根ざした教育実践の深まりと広まり, 東頸郡浦川原村月影小学校	1976. 3	pp. 1-4
126	問い直される校長・教師のあり方	廿二会 30周年記念誌	1976. 8	pp.93-94
127	編集委員委員長 月影小学校長 江口武正	ふるさと浦川原	1976. 3	p.260
128	社会科教育をより充実させる為に	新潟県社会科教育研究会会報 第24号	1976. 3	p. 1
129	生涯教育にたつ小学校教育	社会教育 vol.31 4月号	1976. 4	pp.93-97
130	高田平野の農業とその問題点	社会科教室6月号, 中教出版	1976. 6	pp.14-17
131	ノート指導 -学習ノートこのよきものに-	「新潟県教育月報」8月号 新潟県教育委員会	1976. 8	pp.37-39
132	学校と地域を結ぶ行事の創造	生活教育9月号	1976. 9	pp. 4-12
133	失敗した話しⅣ	母と子11月号, 蒼生社	1976.11	pp.36-39
134	社会科/集団思考場面における子どもの変容	授業研究12月号, 明治図書	1976.12	pp.75-80
135	普通にわきたつノカバンデー	子どもと教育8月号, あゆみ出版	1977. 8	pp.16-25
136	基礎的・基本的内容の検討(2)	社会科教育NO.166 9月号臨時増刊, 明治図書	1977. 9	pp.152-155
137	戦争体験と生活の知恵とを	生活教育1月号	1978. 1	pp.47-48
138	学年主任の基本職務と教頭との職務関係	学校運営研究5月号, 明治図書	1978. 5	pp.57-62
139	「授業案」は演出プランたり得るか〜『村の五年生』の実践を省りみて〜	教育展望6月号	1978. 6	pp.46-50
140	地域を生かす教師の役割	特別活動研究8月号, 明治図書	1978. 8	pp.66-70
141	中学生に“わが町”を	生活教育10月号	1978.10	pp.58-63
142	ねがい(巻頭詩)	研究紀要 [第9号] 名立の教育 名立町教育委員会 名立町学校教育研究会	1979. 3	
143	生き生きとした学校を	生活教育3月号	1979. 3	p.62
144	地域とつながる学校づくりの構想	学校運営研究5月号, 明治図書	1979. 5	pp.68-73
145	教育への目を開いてくれたもの	生活教育6月号	1979. 6	p.48
146	ひたむきに書いた授業記録	授業研究10月号, 明治図書	1979. 1	p. 6
147	教師としての力量を磨くために	生活教育12月号	1979.12	pp.98-103
148	書評, 草の根の社会科-二七年の軌跡- 山下国幸著	社会科教育2月号, 明治図書	1980. 2	p.102
149	梅根悟先生を偲んで	生活教育通信16号	1980. 7	pp.27-28
150	梅根悟先生を偲んで	生活教育1月号 追悼臨時増刊号	1981. 1	pp.186-187
151	学習の見直しをもたせて学習方法体得への工夫-学習課題設定の在り方-	学習指導改善への工夫と実践例中学校編, 新潟県中学校教育研究会	1981. 3	pp.14-23
152	地域との結びつきと学校活動のポイント	学校運営研究6月号, 明治図書	1981. 6	pp.76-83
153	回想「村の五年生」	廿二会 三十五周年記念誌 欠	1981. 8	p.40
154	人間・教育者・社会科教師として力量抜群の内藤先生	社会科研究紀要第17集, 新潟県社会科教育研究会	1982. 3	p.153
155	学習の見直しをもたせて学習方法体得への工夫-生徒の側に立つ学習を目指す課題解決の在り方-	学習指導改善への工夫と実践例Ⅱ中学校編, 新潟県中学校教育研究会	1982. 3	pp.11-20
156	中学時代と地域活動 学校・家庭・地域の連帯の中で	青少年通信, 大潟町公民館発行	1982.10	
157	いま, 職員室では	生活教育4月号	1983. 4	pp.14-15
158	戦後のコア・カリキュラムをふり返り, 対比する中から-新しい時代の子どもを育てる珠玉の実践編-	教育創造84, 上越教育大学教育学部附属小学校 高田教育研究会編	1983. 7	pp.28-33
159	青山先生の思い出	頸城文化41号, 上越郷土研究会	1983. 8	pp.46-48
160	子どもを主人公にする中学校づくり	生活教育1月号	1984. 1	pp.28-33
161	研究紀要第三集に寄せて	研究紀要第3集 研究のあゆみ, 大潟町立大潟町中学校	1984. 3	

162	中村幸一先生に学び続けて	頸城文化42号, 上越郷土研究会	1984. 7	pp.114-117
163	今こそ家庭教育の見直しを	新教組週報(号外)	1984. 7	pp.11-16
164	中学生の苦悩とそれを救う道	生活教育8月号	1984. 8	pp.26-29
165	学校行事と学校再生・学校創造	生活教育2月号	1985. 2	pp.30-35
166	研究紀要第四集に寄せて	研究紀要第4集 研究のあゆみ, 大潟町立大潟町中学校	1985. 3	
167	「学級づくり」こそ基本条件	特別活動研究7月号, 明治図書	1985. 7	pp.13-16
168	教育的力量にすぐれた教師団をどう育てるか	初等教育No62, 新潟県小学校長会	1985. 8	p.49
169	現場からの要望	生活教育10月号	1985.10	p.55
170	『子どもの調べたふるさと南』の発刊を喜ぶ	子どもの調べたふるさと南, 新潟県上越市立南本町小学校	1985.12	pp. 2- 3
171	“急げ救急車”	昭和61年度学校保健だよりNo.15, 上越市学校保健会	1986(月不明)	p. 8
172	みんなで読書好きに!!	昭和60年度読書感想文集第2号 上越市小・中学校図書館協議会	1986. 2	pp. 1- 2
173	研究のまともに寄せて	第15集 研究のまとも, 上越市学校教育研究会	1986. 2	
174	議長力量は学級づくりを基盤に	特別活動研究10月号, 明治図書	1986.10	pp.11-15
175	手先が不器用になった子ども達	生活教育11月号	1986.11	pp. 4- 5
176	発刊によせて	昭和61年度読書感想文集第3号 上越市小・中学校図書館協議会	1986.12	
177	問題解決学習	生活教育12月号	1986.12	pp.55-58
178	『子どもの調べたふるさと南』の第二集に寄せて	子どもの調べたふるさと南第2集, 新潟県上越市立南本町小学校	1986.12	pp. 1- 2
179	回想	あゆみ, 上越市小学校長会	1987. 3	p.28
180	はじめに	子どもに学ぶ喜びを わかる喜び・できる楽しさをもとめて 上越市立南本町小学校	1987. 3	p. 1
181	教育の現代化理論の有効性と限界	学校教育研究NO. 1 日本学校教育学会	1987. 9	PP.193-196
182	子どもの声に学ぶ心を	生活教育10号	1988. 1	pp. 4- 5
183	研究紀要第二集に寄せて	昭和57年度校内共同研究 研究紀要第2集, 大潟町立大潟町中学校	1988. 3	
184	特に私の主張したいこと	生活教育6月号	1988. 6	p.44
185	弔辞	頸城文化45号 故渡辺慶一先生追悼号, 上越郷土研究会	1988. 9	pp.41-42
186	子どもこそ学校の主人公だ	生活教育3月号	1989. 3	pp. 4- 5
187	学校の主人公は子ども	生活教育7月号	1989. 7	pp.36-41
188	「つるの友情」と子供	文芸たかだ, 高田文化協会	1989. 9	p. 1
189	子ども・教師・学校にとっての四月とは	生活教育4月号	1990. 4	pp. 6-11
190	日生連夏季全国集会の思い出1 妙高集会のなつかしい思い出	生活教育11月号	1998.11	pp.56-57
191	第六回全国青年教師連絡協議会に参加して	第一回新潟県民間教育団体研究集会 民間教育団体全国集会 記録集, 新潟県教職員組合教育文化部編集	不明	p.24
192	ふるさとをみつめよう	ふるさとシリーズ1 大潟町の地名, 新潟県中頸城郡大潟町中学校	不明	pp. 1- 2

付 - 江口以外が執筆した関係論文(併置)

-	誌上紹介-学校ぐるみの生活教育 「目を輝かして学ぶ子どもへの道」新潟県東頸城郡月影小学校の実践	生活教育7月号	1975. 7	pp.74-75
-	月影小学校探訪記 -学校ぐるみの生活教育の実践にふれて-	西村誠・比嘉佑典 生活教育5月号	1976. 5	pp.75-77
-	村の封建的な生活意識の変革を求める昭和二十年代農村社会科の典型 -小5「耕地整理」(昭二九・江口武正教諭指導) -	日比 裕 社会科教育11月号, 明治図書	1976.11	pp.110-116
-	村の封建的な生活意識の変革を求める昭和二十年代農村社会科の典型 -小5「耕地整理」(昭二九・江口武正教諭指導) その2 -	日比 裕 社会科教育12月号, 明治図書	1976.12	pp.106-112
-	書評 江口武正著「地域に生きる学校」	広岡亮蔵 「学校運営研究」7月号, 明治図書	1978. 7	p.108

[3] 江口ノート・メディア資料

40点

1- 江口ノート

NO	タイトル	内 容	記載期間
1	若い教師の会 No. 2	第16回~第38回定例会議事, 代表的実践のメモなど	1955. 3-1956.10
2	教育ノート No. 2	研修記録, 「村の2年生, なぐりがき」(1956. 4. 4-5. 22)	1955.12.26-1956. 5. 22
3	上越教師の会 No. 3	運営委員会・定例会議事など	1957. 1.19-1958. 9.16
4	【学習指導の現代化】関連	広岡亮蔵からの手紙, 公開研究の写真, 出版記念会の礼状など	1965. 6.14-1967. 6. 5
5	新潟県上越教師の会 会議録	定例会議事等(1965年度後半-1968年冒頭, 江口以外の記載有)	1965.10.29-1968. 4
6	昭和44年度 No. 1 北条中学校	1年1組, 1年4組社会科指導ノート, 指導案や指導過程を詳細に記録	1969. 9.11-1969. 7. 22
7	昭和47年度月影のメモ No. 1	学校運営資料や研修会, 私簡など	1972. 4. 1-7.17
8	昭和47年度月影のメモ No. 2	学校運営資料や研修会など	1972. 7.18-12.16
9	昭和53年度 名立のメモ No. 1	学校運営資料や研修会, 私簡など	1978. 3. 6-7. 4

10	昭和53年度 名立のメモ No. 2	学校運営資料や研修会など	1978. 7.11-10.11
11	大湯町のメモ No. 1	学校運営資料や研修会、私簡など	1979. 4. 1- 5.31
12	退職をお祝いして	私簡 65通	1987. 4. 7- 5. 6
13	テレビシボ「新時代の教育とは」関連	私簡 64通	1987.12-1988. 1
14	南本町小のメモ	学校運営資料や研修会、私簡など	1985. 3.31- 9.26
15	退職その後のメモ No. 1	上越教師の会講話、新聞投稿原稿、各種講演草稿、私信、新聞記事など	1987. 5. 3-1988. 5. 6
16	退職その後のメモ No. 2	上越教師の会講話、新聞投稿原稿、各種講演草稿、私信、新聞記事など	1988. 5.22-1992. 1.12
17	退職その後のメモ No. 3	上越教師の会講話、新聞投稿原稿、各種講演草稿、私信、新聞記事など	1992. 2.11-1993. 4.27
18	退職後その後の便り No. 4	上越教師の会回想40年&村の五年生&手紙・葉書	1993. 6.26-1994. 7.17
19	「教師と父母へのメッセージ」関連	読者の感想文、いただいた私信、新聞記事など	1994. 3. 3- 5.14
20	退職後主な出来事と便り No. 5	講演録&手紙・葉書	1994. 6. 7-1995.11.22
21	退職後の主な事柄と便り No. 6	手紙・葉書&新聞切り抜き	1995. 1-10.10
22	退職後の主な事柄と便り No. 7	手紙・葉書&新聞切り抜き&機構集&講演会の記録	1996. 4-11.26
23	退職後の主な事柄と便り No. 8	手紙・葉書&新聞切り抜き&講演会	1996.12-1997. 4
24	退職後の主な事柄と便り No. 9	講演録&手紙・葉書&新聞切り抜き	1997. 5.20-11. 8
25	退職後の主な事柄と便り No.10	手紙・葉書&新聞切り抜き&郷土史編纂	1997.11.10-1998. 5.26
26	退職後の主な事柄と便り No.11	日生連50周年記念&手紙・葉書&長岡社会科サークル	1998. 5.21-12.31
27	退職後の主な事柄と便り No.12	新聞の切り抜き&日常生活のメモ&手紙・葉書	1999. 1. 1- 9.22
28	退職後の主な事柄と便り No.13	便り&案内&新聞記事	1999.10. 1-2000. 5.24
29	退職後の主な事柄と便り No.14	便り&案内&新聞記事	2000. 6. 1-2001. 5.14
30	退職後の主な事柄と便り No.15	便り&案内&新聞記事	2001. 6. 8-11. 7
31	直江津捕虜収容所 記念誌関係	記念誌の編集・出版に関する資料や私簡	1996.11-1997. 3. 8

2- 音声テープ

NO	タイトル	年 月 日	備 考
32	初めての1年生担任、読書の大切さ、生徒に学んだサケの放流	不明	
33	親と子のふれあい	1990.12. 5	
34	親と子の心のふれあい	1992. 6.27	南本町小父親PTA 講演
35	安塚町老人クラブ総会記念講演	1992. 7.21	
36	学級崩壊、石黒昭吾のこと、飯塚とし子のこと、梅澤先生と村の五年生の発行	不明	
37	上教大講演	不明	
38	つるの友情、松の本物語、ニューギニア島の話、お帰りなさい先生	不明	森田君夫(525-2436)録音
39	上教大園祭講演	不明	

3- 映像テープ

NO	タイトル	年 月 日	備 考
40	人生の先輩として孫たちに何を伝えるか～江口武正	1998.12. 7～12.12	ワイド120分

4 講演資料 (1985年以降のみ)

325点

	演 題	講演場所等	年	月日	file NO
1	今こそ家庭教育の見直しを	上越市高田地区交通安全母の会	1985	611	11
2	小学生の心の世界とその指導	西頸青海小学校PTA	1985	618	11
3	教師が教師となるとき ～教師が教師になるための力量をいかにつけるか～	公孫会高田支部青年部総会	1985	706	11
4	3,4年生の心の世界とその指導	南本町小学校3,4年PTA	1985	709	11
5	青少年の非行と親の役割	上越市国府新町町内会	1985	720	11
6	学習に意欲的に立ち向かう生徒を育てるためのメモ	板倉中学校校内研修会講話	1985	805	11
7	私の実践と教師論 ～教師が教師になるには～	三一会30周年記念講演	1985	922	11
8	中堅教師のあり方 ～私の経験を通して～	公孫高田支部中堅研修会	1985	927	11
9	学校教育と家庭・地域の力	上越市保倉小学校PTA	1985	1108	11
10	家庭において父親はどうあるべきか	津有小学校父親PTA	1985	1110	11
11	今こそ父親の出番 ～家庭において父親はどうあるべきか～	南本町小学校父親PTA	1985	1115	11
12	家庭における親の在り方	国府小学校2年生PTA	1985	1116	11
13	ささやかな私の教師体験	上越市第5ブロック校長・教頭研修会(第1部)	1985	1120	11
14	学校教育と家庭・地域の力	大島村旭地区村民講座	1985	1126	11
15	今こそ父親の出番 ～家庭において父親はどうあるべきか～	和田小学校父親PTA	1985	1208	11
16	家庭における親のあり方 ～父親の役割～	能生小学校PTA(高学年)	1986	226	12
17	学校教育と家庭・地域の力	新井市立平丸小学校講演	1986	621	12
18	今の子どもを見つめて思うこと	第1学期末PTA全体かい	1986	721	12
19	教育の現代化理論の有効性と限界 ～理論と実践の関係～	日本学校教育学会 第一回研究大会	1986	809	12

20	教師が教師になるとき ～私の実践と教育論～	大地の会講演会	1986	906	12
21	今こそ家庭教育の見直しを	直江津中学校 P T A	1986	1008	12
22	今の子どもをみつめて思うこと	上越市青年会議所フォーラム	1986	1108	12
23	学校教育と家庭・地域の力	中頸板倉町立宮島小学校父親 P T A	1986	1116	12
24	今こそ父親の出番	春日新田小学校父親 P T A	1987	607	13
25	子どもに体と心の健康を ～今の子どもをみつめて思うこと～	直江津更正保護婦人会	1987	609	13
26	心豊かにそして日々を大切に	上越市公民館主催高齢者講座	1987	623	13
27	豊かな心を育てる家庭教育～家庭における父母の役割とそのあり方～	上杉小学校家庭教育学級	1987	626	13
28	教師が教師になるとき～教師としての力量をどのようにしてつけるか	検友会全県学級担任研修会	1987	628	13
29	幼児の心の世界とその指導 ～教師や父母のあり方をめぐって～	上越市学校研幼児教育部会	1987	630	13
30	心豊かにそして日々を大切に ～老年期その過ごし方を考える～	上越市公民館主催おんばこ学級	1987	716	13
31	子どもに体と心の健康を ～今日の子どもをみつめて思うこと～	上越市公民館主催児童家庭教育学級	1987	724	13
32	子育てを考える	三和村家庭教育学級中央セミナー	1987	805	13
33	心豊かにそして日々を大切に ～老年期その過ごし方を考える～	上越市西城町寿楽院主催	1987	807	13
34	子どもに体と心の健康を ～今日の子どもをみつめて思うこと～	糸魚川市・西頸城郡母と女教師の会	1987	808	14
35	回想20年 教職40年とその後半の歩み	上越教育事務所指導主事の会	1987	821	14
36	高学年の心の世界とその指導	能生小学校 P T A	1987	904	14
37	心豊かにそして日々を大切に ～老年期その過ごし方を考える～	東本町3丁目老人会	1987	910	14
38	家庭の機能 家庭における父親と母親のあり方	上越市公民館主催児童家庭教育学級	1987	911	14
39	親の生き方・子の生き方 豊かな心を育てる家庭の在り方	青海町立市振小学校 P T A	1987	917	14
40	豊かな心を育てる家庭教育 ～その2～	上杉小学校家庭教育学級	1987	929	14
41	子育てを考える ～ほめる叱るをどうするか～	三和村家庭教育学級・中央セミナー	1987	929	14
42	私の教頭・校長経験から学んだこと	県立教育センター主催小中学校教頭研修講座	1987	1002	14
43	孫とのあり方 ～この子どもたちをどう育てるか～	大潟町立第4保育所祖父母会	1987	1013	14
44	幼児の心の世界とその指導 ～教師や父母のあり方をめぐって～	三和村保育所職員講演	1987	1024	15
45	大学生君ならどう学ぶか ～教師として学びとる目と心の大切さ～	上越教育大学「学園祭」講演	1987	1102	15
46	親と子のふれ合い ～子供の心の世界とその指導～	国府小学校区青少年健全育成協議会講演	1987	1106	15
47	親の生き方・子の生き方 豊かな心を育てる家庭の在り方	青海町立歌外波小学校 P T A	1987	1129	15
48	世代を知り世代を超える ～心豊かにそして日々を大切に～	三和村大学講演	1987	1204	15
49	親と子のふれ合い ～子供の心の世界とその指導	高土地区 P T A 講演	1987	1205	15
50	子どもに体と心の健康を ～今の子どもをみつめて思うこと～	直江津更正保護婦人会 欠	1987	609	15
51	幼児の心の世界とそのしどう ～教師や父母のあり方をめぐって	上越市学校研幼児教育部会 欠	1987	630	15
52	心豊かにそして日々を大切に ～老年期その過ごし方を考える～	上越市公民館主催おんばこ学級 欠	1987	716	15
53	豊かな心を育てる家庭教育 ～その2～	上杉小学校家庭教育学級 欠	1987	929	15
54	子育てを考える ～ほめる叱るをどうするか～	三和村家庭教育学級中央セミナー 欠	1987	929	15
55	親の生き方・子の生き方 豊かな心を育てる家庭の在り方	青海町立歌外波小学校 P T A 欠	1987	1129	15
56	親と子のふれ合い	新井市立猿橋小学校講演	1988	113	16
57	つるのお話 今の子供に欠けているものは	津有地区家庭教育講座	1988	224	16
58	家庭や地域の力をどこでどう生かすか	西念時主催「現代人セミナー」	1988	226	16
59	つるのお話 今の子供に欠けているものは	新道地域家庭教育講座	1988	303	16
60	(演題不明)	上下浜小	1988	607	16
61	私の実践と教師論 ～教師が教師になるとき～	とわの会講演	1988	612	16
62	家庭における父親の役割	春日地域家庭教育講座	1988	618	16
63	父の役割 母の役割 ～特に父親の子育てについて～	三和村家庭教育学級づくり学級	1988	622	16
64	皆さんにおくる5つのお話 ～36名の子どもたちと、おじいさんおばあさんへ～	新井市立水原小学校講演	1988	706	16
65	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導	糸魚川市立大和小学校 P T A 講演	1988	708	16
66	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導	浦川原村連合 P T A 講演	1988	711	17
67	父の役割 母の役割～特に父親の子育てについて～	上越地域 P T A 連絡協議会講演	1988	712	17
68	子どもに心と体の健康を～今の子どもをみつめて思うこと～	上越保育事業研究会講演	1988	713	17
69	やる気 ほん気の子どもたちへ	東本町小学校全校朝会の講話	1988	716	17
70	子どもに心と体の健康を～今の子どもをみつめて思うこと～	柿崎町「青年育成講演会」講演	1988	717	17
71	子どもに心と体の健康を～今の子どもをみつめて思うこと～	上越学校等給食調理員及び学校用務委研修会	1988	803	17
72	地域の子供はみんなの子～今の子供たちは～	上越市西城町寿楽大学院講演	1988	805	17
73	心の成長と遊び	第34回「母と女教師の会」	1988	807	17
74	お祝いのことば	大潟町成人式	1988	815	17
75	「大潟町史」の特色と近代について	「大潟しんきんクラブ」主催講演会	1988	826	17
76	子供の心の世界とその指導	三和村日曜学校講師研究会	1988	901	18
77	「大潟町史」の特色と近代について発刊とその特色～町史編さんの経過とエピソード、町史の特色～	大潟町教育委員会主催	1988	919	18
78	1. 本をよく読んだ日影小学校の市村君 2. ぬすみをしなかったニューギニアの子ども	新井氏平丸小学校児童に講話	1988	1015	18
79	児童の心をつかむ話し方	養護教員校種別研究小学校研修会	1988	1019	18
80	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導	高志地区青少年問題協議会主催	1988	116	18
81	子供の心と体に健康～今の子供を見つめて思うこと～	五智保育園主催講演会	1988	117	18
82	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	中頸 大潟町小学校 P T A 講演会	1988	1124	18

83	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	直江津小学校 P T A 講演会	1988	1129	18
84	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	板倉町「子育て広場」講演	1988	1130	18
85	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	北源訪小学校「地域家庭教育講座」	1988	1201	18
86	中学生君ならどう生きるか	頸城中学校立憲式における講演	1989	114	19
87	非行のない子を育てるには	高志保育園にての講演 欠	1989	128	19
88	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	糸魚川市立大和小学校 P T A 講演	1989	204	19
89	ふるさを見直そう 1.ふるさとの地名のいわれ	直江津ロータリークラブ講話	1989	208	19
90	ふるさを見直そう 2.直江津の歴史そのこぼれ話	直江津ロータリークラブ講話	1989	214	19
91	ふるさを見直そう 3.ふるさとの伝説・昔話(民話)そして行事	直江津ロータリークラブ講話	1989	221	19
92	ふるさを見直そう 4.ふるさとの子ども昔と今	直江津ロータリークラブ講話	1989	228	19
93	望ましい授業の確立をめざして	城北中学校校内研修会講話	1989	327	19
94	大潟町の近代史と生活・風俗の特色	大潟町「ふるさと講座」	1989	516	19
95	中学二年生 君ならどう生きよう学ぶか	城東中学校第二学年・生徒 P T A 講話	1989	602	19
96	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	吉川町幼・小・中子育て学級講演会	1989	611	20
97	中学生の子を持つ家庭の役割	城西中学校第一学年 P T A 講演	1989	616	20
98	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	三和村立里公 P T A 講演	1989	620	20
99	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	中魚・中里村立倉小 P T A 講演	1989	623	20
100	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめて思うこと～	三和村しらぎく保育所講演	1989	624	20
101	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめて思うこと～	板倉町「子育て学級講演	1989	627	20
102	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	三和村立上杉小学校 P T A 講演	1989	627	20
103	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	妙高村立原通 P T A 講演	1989	624	20
104	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめて思うこと～	三和村つくし保育所講演	1989	629	20
105	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめて思うこと～	三和村ひまわり保育所講演	1989	630	20
106	父の役割、母の役割～特に父親の子育てについて～	マハナヤ(ママ)幼稚園父親 P T A 講演	1989	702	21
107	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	柏崎小学校 P T A 講演	1989	704	21
108	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	三和村立美守小学校 P T A 講演	1989	705	21
109	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめておくこと～	糸魚川市立大和小学校 P T A 講演	1989	706	21
110	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	上越市立戸野川小学校 P T A 講演	1989	707	21
111	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	板倉町立山部小学校 P T A 講演	1989	708	21
112	親と子のふれ合い～子どもの心の世界とその指導～	春日区青少年協主催講演会	1989	711	21
113	中学生君ならどう生きよう学ぶか	中郷村立中郷中学校生徒・父母講演会	1989	715	21
114	家庭における父母と子供の絆	板倉町子育て広場講演第2回目	1989	726	21
115	感想文に見られる問題点と質問に答える	三和村家庭教育学級・中央セミナー	1989	808	21
116	お祝いの言葉	大潟町成人式	1989	815	22
117	ふるさとの子ども昔と今	上越中央ライオンズクラブ講話	1989	818	22
118	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめて思うこと～	ひがし幼稚園主催 P T A 講演会	1989	906	22
119	私はここで変わった～子供・父母・先輩に学んだことから～	板倉町「子育て広場」講演(3回目)	1989	1031	22
120	ふるさとの子供、昔と今	県産物組合助成金事業講演会講演	1989	1030	22
121	子供の心と体に健康を～今の子供を見つめて思うこと～	吉川町旭保育所祖父母講演	1989	1107	22
122	君たちはどう学びどう生きるか	国府小学校6年生父母・子供講演	1989	1109	22
123	子供の心と体に健康を～今の子供を見つめて思うこと～	吉川町旭保育所祖父母講演	1989	1110	22
124	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	新井市姫川原小学校父親 P T A 講演	1989	1111	22
125	今の子供の家庭地域の教育	小猿屋校区婦人講座(有田地区)	1989	1115	22
126	子どもの心と体に健康を～今の子どもを見つめて思うこと～	吉川中央保育所祖父母講演	1989	1114	22
127	子供の心を育てる家庭・地域の教育を	板倉町「子育てひろば」講演(最終回)	1989	1129	22
128	子供の心と体に健康を～今の子供を見つめて思うこと～	吉川町源保育所祖父母講演会	1989	1121	22
129	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	吉川町立源小学校 P T A 講演会	1989	1219	22
130	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	浦川原村「明るい家庭づくり講演会(末広地区)」	1990	226	23
131	心豊かな職場をつくる人間関係	県立中央病院講演会要旨	1990	227	23
132	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	青少年関係機関上越地区連絡会議	1990	305	23
133	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	直江津更生保護婦人会講演	1990	613	23
134	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	大湊小学校 P T A 講演会	1990	616	23
135	今こそ家庭教育の見直しを	三和中学校 P T A 父親学級講演会	1990	617	23
136	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	名立町連合 P T A 主催講演会	1990	630	23
137	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	第16回早川地区子供を考える親の集い	1990	708	23
138	親と子のふれあいと非行問題について	上越北地区少年補導院連絡会講演	1990	723	23
139	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	上雲寺小学校区青少年健全育成協議会	1990	810	23
140	お祝いの言葉	大潟町成人式	1990	815	24
141	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	三和村第6回「寿大学」講演会	1990	1023	24
142	1・2年生の心の世界と父母の在り方	春日新田小第1学年 P T A 講演会	1990	1026	24
143	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	八千浦地区「明るいまちづくり協議会」講演会	1990	1106	24
144	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	矢代小学校 P T A 講演会	1990	1117	24
145	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	板倉町豊原小学校父親 P T A 講演会	1990	1118	24
146	子供の心と体に健康を～家庭教育の在り方を考える～	新井市立姫川原小学校父親 P T A	1990	1123	24
147	親と子のふれあい～子供の心の世界とその指導～	新井市立斐太北小学校講演会	1990	1201	24
148	心豊かな職場をつくる人間関係	頸城自動車株式会社講演	1990	1204	24

149	親と子のふれあい ～子供の心の世界とその指導～	妙高村立関山小学校 PTA 講演会	1990	1205	24
150	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	駒林・下百々老人会講演会	1990	1215	24
151	子供の心と体に健康を～家庭教育の在り方を考える～	浦川原村立末広保育所	1991	118	25
152	親と子のふれあい ～子供の心の世界とその指導～	上越市立谷浜小学校 PTA 講演	1991	120	25
153	子供の自立性を育てるには親としてどうあるべきか	東頸安塚町保育園講演	1991	226	25
154	ふるさとの子ども昔と今	富岡小学校 PTA 講演	1991	615	25
155	(演題不明)	第37回二市中頸「母と女教師の会」	1991	804	25
156	みんなですぐれた学級づくりを	南本町小学校校内研修会	1991	805	25
157	親と子のふれ合い ～子供の心の世界とその指導～	柏崎市小中学校 PTA 研究集会講演	1991	818	25
158	中学生君ならどう生きたい学ぶか	城北中学校3年生生徒・父母進路学習講話	1991	910	25
159	「ふるさと散歩道」をどう学ぶか	大潟町「ふるさと散歩道」講座開講式	1991	915	25
160	今こそ家庭教育の見直しを	上越市立雄志中学校父親 PTA	1991	928	25
161	親と子のふれ合い ～子供の心の世界とその指導～	東頸松之山町 PTA 連絡協議会	1991	1009	26
162	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	菅原小学校日曜 P T A 講演会	1991	1020	26
163	ふるさとの子ども昔と今	西頸城郡能生町磯部地区講演会	1991	1027	26
164	ふるさとの子供昔と今	障害児学校寮母支部秋の学習会	1991	1102	26
165	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	上越市野尻区敬老会講演会	1991	1106	26
166	大西の子どもたちへの願い～明るい家庭づくりのために～	三和村大西集落「明るい家庭づくり」講演会	1991	1124	26
167	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	中頸 妙高北小学校 P T A 講演会	1991	1127	26
168	「上越市史」こぼれ話	上越市成人講座	1991	1129	26
169	地域の子供はみんなの子～今の子供たちを見て思うこと～	上越市駒林・下百ヶ高齢者講演会	1991	1219	26
170	大潟町の近現代史に見られる特色	大潟町「ふるさと散歩道」第4回講座	1991	1215	26
171	「上越市史」(普及版)の特色とこぼれ話	上越教師の会12月例会講和	1991	1228	26
172	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	能生町立能生小学校 P T A 講演会	1992	120	27
173	親と子のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	三島郡和島村桐島小町観学級講演	1992	202	27
174	大潟町の近現代史に見られる特色(続)大潟町の歴史(各論)「生活と風俗」No1	大潟町「ふるさと散歩道」第5回講座	1992	308	27
175	郷土の歴史について	金谷地区高齢者講座	1992	321	27
176	みんなですぐれた学級づくりを	上越市八千浦小学校校内研修会	1992	420	27
177	郷土の伝説と民話	上越市「なかよし」講演会	1992	528	27
178	ふるさとの子ども昔と今	高田ロータリークラブ講話	1992	605	27
179	家庭における父親の子育て	和田地域家庭教育講座	1992	617	27
180	親と子の心のふれ合い～子供の心の世界とその指導	新井市中央小学校 P T A 講演会	1992	621	27
181	親と子の心のふれ合い～子供の心の世界とその指導	上越市立南本町小学校 P T A 講演会	1992	627	27
182	親と子の心のふれ合い～子供の心の世界とその指導	南魚大和町 P T A 研究集会	1992	703	28
183	心豊かにそして日々を大切に	東頸 安塚町敬老会講演会	1992	707	28
184	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	安塚町老人クラブ連合会講演	1992	721	28
185	心の成長と遊び	二市中頸「母と女教師の会」	1992	802	28
186	地域の研究の進め方・まとめ方	高田図書館(標題?)	1992	807	28
187	地域の研究の進め方・まとめ方	直江津図書館(標題?)	1992	820	28
188	「村の五年生」が生み出されるまで	「上越教師の会」第38回夏期合宿研究会	1992	814-815	28
189	幼児の心の世界とその指導～父母と保母の在り方をめぐって～	新潟県保母所長研修会講演	1992	909	28
190	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	大潟町第一保育所・園児・祖父母への講演	1992	1009	28
191	大潟町の歴史(各論編)～生活と風俗No.2	大潟町「ふるさと散歩道」講話	1992	1011	28
192	中学生の子を待つ家庭の役割	城西中学校第一学年 P T A 講演	1992	1021	29
193	教育的力量のすぐれた教師集団をどう育てるか	南本町小学校同入校長・校長研修会講話	1992	1024	29
194	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	大潟町第二保育所祖父母講演	1992	1030	29
195	望ましい父親の子育て～21世紀をよりよく生きるために～	柿崎町立黒川小学校 P T A 教養講座	1992	1108	29
196	望ましい父親の子育て	上越市南新町保育所講演会	1992	1110	29
197	望ましい父母の子育て	新井市猿橋小学校講演会	1992	1127	29
198	望ましい父母の子育て	加茂市須田保育園の父母・地区民講演会	1992	1206	29
199	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	清里村第2回地域活動「育児講座」祖父母対象	1993	715	30
200	親と子の心のふれ合い	中頸・頸城村立明治小学校 PTA 講演	1993	720	30
201	幼児の心の世界と保母の在り方	東頸保育事業研究会総会並びに研修会講演	1993	817	30
202	幼児の心の世界と保母の在り方	県保母会上越第2支部研修会講演	1993	904	30
203	今君たちは何を学ぶべきか	上越市立直江津東中学校1年生講話	1993	1016	30
204	幼児の心の世界と保母の在り方	平成5年度新潟県主任保母研修会講演	1993	1006	30
205	家庭・地域の望ましい子育て	東頸・浦川原村下保倉小学校創立120周年記念講演会	1993	1024	30
206	指導・助言「子供の成長と家庭の役割」三世同居を生かそう	清里村第3回「育児講座(両親・祖父母学級)」	1993	1104	30
207	親と子の心のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	大潟町立第3保育所父親講演会	1993	1107	30
208	子どもたちに「生きる力」と「学喜び」を	名立町商工会各種表彰式典における講演	1993	1111	30
209	家庭・社会における人間関係	公民館主催婦人学級(くらし生き活きコース)講演	1993	1117	31
210	親と子の心のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	大潟町立第2保育所父親講演会	1993	1121	31
211	親と子の心のふれ合い～子供の心の世界とその指導～	新井市立斐太北保育園保護者講演	1993	1207	31
212	大潟町の歴史(各論編)～教育と人物～	大潟町「ふるさと散歩道」講座	1993	1219	31

213	郷土の歴史について	高土地域高齢者講座	1993	205	31
214	望ましい父母の子育て	浦川原村立中保倉小学校PTA講演会	1993	219	31
215	望ましい父母の子育て	上越市立北諏訪小学校区青少年健全育成協議会講演会	1993	223	31
216	望ましい父母の子育て	上越市谷浜地区「子供を持つ親のミニ集会」	1993	302	31
217	望ましい父母の子育て	東蒲、上川村「上条・日野川保育所」母の会	1993	303	31
218	大潟町の歴史(各論編) - 商業と観光 -	大潟町「ふるさと散歩道」講座	1993	314	31
219	すぐれた学級づくりと授業をめざして	南本町小学校区内研修会講話	1993	422	32
220	望ましい父母の子育て	上越市三郷保育園講演会	1993	214	32
221	私の郷土史研究とエピソード	上越市民館「仲よし学級」講演	1993	527	32
222	望ましい父母の子育て-特に父親の在り方をめぐって-	中須・清里村平成5年度「育児講座」第1回	1993	603	32
223	みんなですぐれた学級づくり	妙高高原町立妙高南小学校区内研修会講話	1993	618	32
224	幼児の心の世界と保母の在り方	下越地区私立保育園主任保母等研修会講演	1993	623	32
225	望ましい父母の子育て	なかよし保育園PTA講演	1993	626	32
226	望ましい父母の子育て	新井市立水原小学校PTA学習会	1993	629	32
227	望ましい父母の子育て	上越市中通町城西保育園親・祖母海の会講演	1993	710	32
228	人生の先輩として子供たちに何を伝えるか	上越市高齢者「あさひ学級」講演要項	1993	713	32
229	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	上越市立富岡保育園保護者講演	1994	122	33
230	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	上越市立高土地域家庭教育講座	1994	224	33
231	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	上越稲田「なかよし保育園」祖父講演	1994	310	33
232	上越教師の会回想40年	上越教師の会創立40周年記念式典における回顧	1994	501	33
233	「ふるさと散歩道」をどう学ぶか	「ふるさと散歩道」講座開講式	1994	517	33
234	家庭における父母の在り方-親と子の心のふれ合い-	新井市補導委員 小中学校PTA 補導部 合同研修会講演	1994	606	33
235	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	木浦地区公民館 木浦小学校PTA 共催講演会	1994	611	33
236	幼児の心の世界と保母の在り方	下越地区一般母研修会講演	1994	616	33
237	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	見附市新潟小学校PTA講演	1994	617	33
238	望ましい父親の子育て-21世紀をよりよく生き抜くために-	富岡保育園父親講演会	1994	618	33
239	大潟町の近現代史に見られる特色	大潟町「ふるさと散歩道」講座	1994	620	34
240	私の郷土研究とそのエピソード	上越市高齢者「あさひ学級」講座	1994	621	34
241	子供へのうれいと願い	糸魚川市ロータリークラブ講座	1994	623	34
242	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	牧村連合PTA 家庭教育研究大会	1994	703	34
243	望ましい父親の子育て	谷浜地域家庭教育講座	1994	709	34
244	このことだけは毎日の生活に生かそう	柿崎町立中山小学校児童・父母・教師講座	1994	721	34
245	望ましい父親の子育て	矢代保育園「すくすくあらいっ子学級」講演	1994	723	34
246	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	柿崎町青少年健全育成講演会	1994	807	34
247	大潟町の歴史と文化②-大潟町のとっておきの話-	大潟町「ふるさと散歩道」第3回講座	1994	820	34
248	家庭・地域の望ましい子育て	十日町市立飛渡第2小学校区「子育て教室」講演会	1994	828	34
249	高田・金谷地域の昔と今	金谷地域高齢者講座	1994	1024	34
250	家庭・社会における人間関係	公民館主催婦人学級(くらし生き生きコース)講演	1994	1108	34
251	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	上越市「はまなす学級」講演会	1994	1110	34
252	親と子の心のふれ合い-子供心の世界とその指導-	糸魚川市北西海小学校講演	1994	1201	34
253	子供の性格とその接し方	上越市立富岡保育園母親講演会	1995	121	35
254	望ましい父母の子育て	新井市立新井南小学校PTA講演会	1995	228	35
255	家庭・地域の望ましい子育て	名立町青少年育成町民会議講演	1995	520	35
256	いじめ等の問題行動と望ましい父母の子育て	上越市立南本町小学校父親PTA講演会	1995	617	35
257	子どもたちに「学ぶ喜び」と「生きる力」を	「人権の会」における講演	1995	718	35
258	いじめ等の問題行動と望ましい子育ての在り方	上越市第4地区民生委員協議会講演	1995	828	35
259	“子育て、孫育て” 自立した子供を育てるために	加茂市本屋寺保育園講演	1995	908	35
260	「じょうずなほめ方、しかり方」-親と子の心のふれ合い-	三和村里小学校家庭教育学級	1995	927	35
261	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	平成7年東寿大学における講演	1995	1107	35
262	みんなですぐれた学級づくりを	平成7年度「上越教師の会」忘年会講演	1995	1223	35
263	直江津捕虜収容所物語	直江津南小学校6年生への講話	1996	207	36
264	家庭・地域の望ましい子育て	上越市青少年健全育成協議会連合会研修会講演	1996	226	36
265	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	新井市美守町内長寿クラブ講演会	1996	228	36
266	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	国民年金委員研修会講演	1996	326	36
267	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	三和村「寿大学」における講演	1996	426	36
268	すぐれた学級づくりと授業をめざして	東頭牧村教職員協議会講演	1996	521	36
269	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	上越市津有地区高齢者の会講演	1996	528	36
270	子どもたちに「学ぶ喜び」と「生きる力」を	北諏訪小学校家庭教育講座	1996	702	36
271	私の郷土史研究とエピソード	高齢者大学「どんぐり学級」講座	1996	705	36
272	「豊かな心を育てるための家庭・学校・地域の役割」-学校5日制時代を迎えるに当たって-	新井市小中学校PTA 連合会研究大会基調講演	1996	728	36
273	家庭や地域における望ましい子育て	飯小区青少年健全育成講演会	1996	927	37
274	心に残る忘れない話	松代町「心の教育フォーラム」講演	1996	1022	37
275	家庭や地域における望ましい子育て	直江津小学校PTA 青少年健全育成協議会	1996	1107	37
276	人生の先輩として子どもたちに何を伝えるか	明治地区高齢者講座	1996	1108	37

277	高齢者の出番ですよ！	谷浜地域高齢者講座	1996	1110	37
278	昔話と伝説について－上越に伝わる昔話と伝説－	上越の風土と暮らし講座 欠	1996	1114	37
279	望ましい父母の子育て	新井市上馬場小学校「PA 学習会」講演	1996	1119	37
280	「学ぶ喜び」と「生きる力」を！	大潟町中学校「平成8年生きる力」講演会	1996	1127	37
281	伝説とむかし話について	大潟町平成8年度「ふるさと散歩道」講座	1996	1210	37
282	心に残る忘れない話	上越市立桑取小学校における講話	1997	313	38
283	人生の先輩として孫たちに何を伝えるか	上越市高志地区寿会講演会	1997	327	38
284	サークルの歴史に学ぶ	「上越教師の会」5月例会講話	1997	515	38
285	心に残る忘れない話	西頸・青海町立歌外渡小学校における講演	1997	627	38
286	「名立・機雷事故の惨状を語る」	連合新潟上越地域協議会講演於教育会館	1997	807	38
287	私の郷土史研究とエピソード	信越化学直江津 OB 会講演	1997	1106	38
288	<授業>戦争の悲惨さと平和の大切さ <講話>1私の生徒動員と戦争体験談 2名立の機雷爆発の惨状	上越市立保倉小学校における授業と講話	1997	1121	38
289	戦争の悲惨さと平和の大切さ	上越市立小猿屋小学校の授業	1997	1127	38
290	「名立町史」よもやま話	名立町立公民館	1997	1213	38
291	<授業>戦争の悲惨さと平和の大切さ <講話>私の生徒動員と戦争体験談	上越市立北諏訪小学校の授業と講話	1998	116	39
292	いじめ等の問題行動と望ましい子育ての在り方	上越市大学新町池の島幼稚園・小学校 保護者・PTA 講演	1998	124	39
293	すぐれた学級づくりと授業をめざして	公孫会柿崎支部講演	1998	207	39
294	“子育て、孫育て”自立した子供を育てるために	津有地域家庭教育講座（上雲寺保育園）欠	1998	220	39
295	心に残る忘れない話	上越市津有地区高齢者の会講演	1998	317	39
296	心に残る忘れない話	有田地域高齢者講座	1998	618	39
297	望ましい父親の子育て	春日保育園園児の保護者（特に父親）	1998	620	39
298	天女舞う平和記念公園見学	「まさご会」会員の方々	1998	707	39
299	平和友好への道－直江津捕虜収容所の悲劇を乗り越えて	「まさご会」総会、平和記念公園見学・講話	1998	707	39
300	幼児の心の世界と保母の在り方	上越市公立保育園保母の皆様への講演	1998	804	39
301	名立・機雷事故の惨状を語る	高志第1・2・3・4・5寿会講演	1998	807	40
302	心に残る忘れられない話	上越市西城町4丁目老人会講演	1998	913	40
303	心に残る忘れられない話	高齢者大学「どんぐり学級」講演	1998	1002	40
304	人生の先輩として孫たちに何を伝えるか	「楽らく講演会」	1998	1014	40
305	伝統と昔話について	上越市北諏訪地域老人会「東寿会」講演	1998	1112	40
306	平和友好への道～直江津捕虜収容所の悲劇を乗り越えて～	新潟県教職員組合第48次新潟県教育研究会講演	1998	1114	40
307	戦争の悲惨さと平和の大切さ	上越市立南本町小学校6年生（1・2組）の授業	1998	1125	40
308	天女舞う平和記念公園見学～記念講演の主なものごらの説明～	糸魚川市大和川小学校6年生への講話	1998	1127	40
309	すぐれた学級づくりと授業をめざして	長岡市 長岡社会科サークル講演	1998	1128	40
310	第1話より第13話まで（1999.4.20～9.28）	FM ラジオ曲より放送	1998	40	40
311	教師が教師になるとき－私の実践と教師論－	「上越教師の会」春の総会における講演	1999	425	41
312	人生の先輩として孫たちに何を伝えるか	第10回上越農業協同組合－上越地区年金友の会－役員総会講演	1999	528	41
313	子育て、孫育てで抑制力と自立心を育てるために	浦川厚村立中保倉小学校PTA会員・校区祖父母講演	1999	606	41
314	心に残る忘れない話	上越市三ツ橋新田地区老人会PTAの方々に講演	1999	706	41
315	望ましい父母の子育て	東頸城郡松之山小学校PTA講演	1999	716	41
316	戦争の悲惨さと平和の大切さ・私の生徒動員と戦争体験談	上越市立飯小学校の授業と講話	1999	918	41
317	心に残る忘れない話	高志小学校校区青少年協議会主催	1999	1015	41
318	戦争の悲惨さと平和の大切さ・私の生徒動員と戦争体験談	上越市南本町小学校の授業と講話	1999	1117	41
319	戦争の悲惨さと平和の大切さ・私の生徒動員と戦争体験談	上越市東本町小学校の授業と講話	1999	1120	41
320	平和友好への道－直江津捕虜収容所の悲劇を乗り越えて	柿崎小学校の6年生及び父母の皆さんへの講話	2000	119	42
321	子どもの性格とその授け方	上越市立諏訪保育園の母親講話会	2000	219	42
322	人生の先輩として孫たちに何を伝えるか	柿崎市老人クラブ連合会「女性研修会」への講演	2000	1121	42
323	教師が教師になるとき～私の実践と教師論～	「上越教師の会」夏期研究会における講演	2001	819	42
324	講演・講話参考資料	江口武正	不明	不明	42
325	教育的力量のすぐれた教師集団をどう育てるか	上越市校長会講演会	1986	530	12

[5] 実践資料

148点

NO	タイトル	発行者	発行年	備考
1	県新教育研究指定校新教育の諸問題と我が校の実践報告(昭和22年度)	新潟県中頸城郡戸野目小学校	1948	
2	社会科単元綴 No. 1 単元私達の村 主として中江用水の指導をめぐる	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明	
3	社会科単元綴 No. 2 四年生の単元「収穫」の展開と指導の実際	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明	
4	社会科単元綴 No. 3 五年生の単元～ありのままの姿をつづる「私達の生活と災害」記録集	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	1949	

5	社会科単元綴 No. 4 現場からの学習論 社会科分団学習への自己批判	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明
6	社会科単元綴 No. 5 私と子供の作った社会科学習の手引	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	1950
7	社会科単元綴 No. 6 社会科に於ける見学学習のあり方 農機具工場の見学	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明
8	社会科単元綴 No. 7 導入活動の二つの型 単元「郷土の誇り」稲作と天気	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明
9	社会科単元綴 No. 8 記録を残すために 「単元」農機具工場より 社会科教師と子供の記録	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明
10	社会科単元綴 No.11 社会科現場からの単元学習論	新潟県中頸城郡津有村戸野目小学校 江口武正	不明
11	社会科単元綴 No.12 村の現実を克服する子供への道 手と手を取り合う父母と教師の記録 社会科指導を評価する一資料	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正 欠	1948
12	社会科単元綴 No.13 村の現実立ち現実に克服する子供文集「つありの子供」 「心」 社会科授業を評価する一資料	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正	不明
13	問題児の指導 No. 1 校内アナウンサーに 特にな気なYの指導と成長の記録	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正	1952
14	問題児の指導 No. 2 科学するMとの歩み 豆科学者お天気博士はこうやって生れた	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正	不明
15	問題児の指導 No. 3 忘れられぬ子への道 劣等児指導の記録	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正	不明
16	問題児の指導 No. 4 性格異常児Yを受け持って	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正	不明
17	問題児の指導 No. 5 K子の指導日記から	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校江口武正	不明
18	研究実践報告第二集農村コミュニテースクールとしての我が校の教育	戸野目小学校	1949
19	戸野目小学校父母と教師の会 会報第1号から第5号	戸野目小学校父母と教師の会	1949～1951
20	のびゆく若葉 卒業記念号	戸野目小学校 6年1組	1951
21	戸野目小学校PTAだより 第6号から第25号(第12号欠)+第31号	戸野目小学校PTA	1951～1960
22	地域性に立つ戸野目の教育 教育課程編	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校	1952
23	週指導計画実施表 附児童の行動記録と指導	戸野目小学校六年二組教諭江口武正	1953
24	学級経営録	戸野目小学校六年二組担任江口武正	1953
25	教育評論 臨時特集号 第一回教育研究大会報告書	日本教職員組合機関誌(コピー)	1953
26	やなぎ	津有村立戸野目小学校	1953
	やなぎ 第2号	中頸城郡津有村立戸野目小学校	不明
	やなぎ 高学年第3号	新潟県高田市立戸野目小学校	不明
	やなぎ 第5号	新潟県高田市立戸野目小学校	1957
	親と子と教師のかたりあい	新潟県高田市立戸野目小学校3年PTA	1958
27	単元凶作 私たちはこうして指導した	新潟県中頸城郡津有存立戸野目小学校4年担任江口武正 教諭 梅沢勲教諭	1954
28	どろあし 凶作特集号	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校4年1組	1954
29	こうちせりり 社会科学習のまとめ	中頸城郡津有存立戸野目小学校5年1組	1954
30	わかき 社会科特集号No. 27	高田市立戸野目小学校5年1組PTA	1955
31	わかき 28	高田市立戸野目小学校6年1組PTA	1955
32	せんせ1 特集 今年の学級経営	若い教師の会	1955
33	せんせ3	若い教師の会	1955
34	せんせ4	若い教師の会	1955
35	せんせ5	若い教師の会	1955
36	せんせ6	若い教師の会	1956
37	せんせ7	若い教師の会	1956
38	せんせ8	若い教師の会	1956
39	せんせ9	若い教師の会	1956
40	せんせ10	若い教師の会	1956
41	せんせ11	若い教師の会	1956
42	せんせ12	若い教師の会	1956
43	せんせ14	若い教師の会	1957
44	せんせ15	若い教師の会	1957
45	親と子と教師のあゆみ	新潟県高田市立戸野目小学校6年PTA	1956
46	ひろば	戸野目小学校2年2組PTA会報	不明
47	ひろば	高田市立戸野目小学校3年2組PTAだより	1957
48	「学校新聞」「仲良しクラブ」「わかば新聞」	戸野目小学校新聞部	1950～1960
49	生活拡充単元「学校新聞」展開と指導の実際	6の2江口武正	不明
50	道徳教育を、どのように進めていったらよいか	新潟県高田市立戸野目小学校 江口武正	不明
51	学習計画の批判と其の再編成を如何にするか	新潟県教組 中頸城郡津有小学校 江口武正	不明
52	第七次教研集会第20分科会(父母との連携)報告書「父母との結びつきの研究」=学級・学年PTA部落集を通して=	新教組高田支部 戸野目小学校教諭 江口武正	不明
53	はなが集 たんぼ5	6の1	不明
54	ひろば	高田市立大手町小学校5年2組PTAだより	1958

55	ヘソの緒の話	道徳 明るい人生 1年 愛知県教育振興会	1958	pp.19-23
56	いずみ	高田市立大手町小学校	1960	
57	雑草 卒業記念卒業文集	高田市立大手町小学校	1960	
58	第七回 島小公開研究会<教育の可能性と限界性>	群馬県・島小学校	1961	
59	島小学校公開研究会報告記	大手町小学校 江口武正・藤原次郎・戸野目小学校 梅沢勲・上雲寺小学校 山賀昭治	1962	
60	思い出の記1963	高田市立大手町小学校3年1組	1963	
61	めばえ	高田市立大手町小学校3年2組	1963	
62	創立九十周年記念誌	高田市立大手町小学校	1963	
63	思考を高める集団学習と個別学習の実践的研究 ―授業の 分析的研究 プログラム学習 シンクロファックス活用の 学習を主として―	高田市立大手町小学校	1963	
64	研究紀要第二集 思考を高める集団学習と個別学習の実践 研究 -シンクロファックスによる学習指導の改善-	新潟県高田市立大手町小学校	1965	
65	学習指導の改善をめざす教育研究の歩みと現状	高田市立大手町小学校	1965	
66	学習公開・研究発表会要項 学習指導の現代化-教材構造 と学習過程の追求-	新潟県高田市立大手町小学校	1966	
67	社会科部会資料		1966	
68	全国公開研究会 中央出版に関する日程及び準備	新潟県高田市立大手町小学校	1966	
69	教育課程の構造	高田市立大手町小学校	不明	
70	ひまわり	大手町小学校 六年 PTA 発行	不明	
71	戦争体験調査資料「仮題」		1967	
72	戦争と平和「戦争への道と国民生活」実践資料		1967	
73	子ども広報に関する綴		1968	
74	昭和47年度以降 校長としての指導案綴（公開授業）	東頸城郡蒲川原村立月影小学校長 江口武正	1972	
75	へき地教育研究会ご案内 目を輝かせて学ぶ子どもへの道 地域に根ざした教育実践	東頸城郡へき地複式教育研究会 東頸城郡蒲川原村立 月影小学校	1973	
76	目を輝かせて学ぶ子どもへの道 地域に根ざした教育実践	東頸・蒲川原村立月影小学校長 江口武正	1975	
77	教師の時間 村の五年生 ～戦後教育～実践の記録	新潟県蒲川原村月影小学校長江口武正 立教大学教授 浜田陽太郎 NHKETV 放送台本	1975	
78	教師の時間 NHK（VTRより録音）村の五年生	立教大学教授・文学部長 浜田陽太郎氏 江口武正対談	1975	
79	社会科「地域社会の素材を生かした効果的な社会科指導」	文部省・新潟県教育委員会共催 東部へき地教育指導 者講座	1977	
80	意見発表記録集	名立町立名立中学校	1978	
81	社会科実践記録 近代日本の成立 中学2年	大潟町中学校長 江口武正	1980	
82	昭和56年度～57年度 上越教師の会	大潟町中 江口武正	1981	
83	PTA 指導者研修資料望ましいPTA活動を求めて	新潟県教育庁社会教育課	1982	
84	地域に根ざす教育と社会科出版祝賀会	上越教師の会	1982	
85	教師の時間・教育界の話題 校長教壇にたつ 取材日程		1982	
86	30周年を祝う会	上越教師の会	1983	
87	ふるさと大潟町	大潟町町史編さん委員会	1983	
88	子どもの調べたふるさと大潟町	編集 大潟町中学校長 江口武正	1983	p.14
89	昭和58年度 生徒名簿	大潟町中学校	1983	
90	日本社会科教育学会第34回全国研究大会 発表要旨集録		1984	
91	一人ひとりの能力・適性を生かす教育課程の編成と実施に 関する実践的研究	第36回 関東甲信越地区中学校長研究協議会新潟大会	1984	pp.32-35
92	提案発表要項 一人ひとりを生かす授業の確立をめざして	大潟町中学校 江口武正	不明	
93	県中夏季研修研究発表（要項）	大潟町中学校 江口武正 浦田中 中林	不明	
94	農村社会科の実践「村の五年生」をふり返って	新潟県中頸城郡大潟町立大潟町中学校長 江口武正	不明	原稿用紙
95	私の学校経営「生き生きとした学校の実現を目指して」 ～その考え方とささやかな実践～	大潟町中学校長 江口武正 欠	不明	原稿用紙
96	上越教育大学「社会科教育」第二回講座 上越教師の会の 社会科実践	上越市立南本町小学校長 江口武正	1985	
97	ネットワーク・リポート 先生がんばっていますか	NHKGTV 放送台本	1985	pp.138-144
98	「子どもの調べたふるさと南」の発刊を喜ぶ	子どもの調べたふるさと南 新潟県上越市立南本町小 学校	1985	p.2-3
99	昭和59年度 社会福祉研究普及校活動報告書-ある青春 PART II	社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会 欠	1985～	
100	上越教育大学社会科実地研究「学部4年次生」<シンポジ ウムテーマ>社会科教師に求められるもの-社会科教師の心 得10か案-	江口武正	1986	
101	日本学校教育学会 第一回研究大会発表要旨		1986	
102	南本町小 講話 学級づくり同和教育	江口武正	1986	
103	第三十二回 上越教師の会夏季合宿研究会集	上越教師の会	1986	
104	教育フォーラム ーより豊かな子供を育てるために……今、 問い直そう！私たちの教育の在り方を……！	社団法人 上越青年会議所 青少年・教育開発委員会	1986	
105	あとがき	わたしたちの大潟町	1986	
106	テレビシンポジウム 新時代の教育とは～教育課程審議会 答申をめぐって～	NHKT V 放送台本	1987	
107	江口武正先生 退職・出版・受賞記念祝賀会		1987	

108	上越教育大学「社会科教育」第2回講演 すぐれた社会科の授業をするには ～実践に基づく私の社会科授業論～	前上越市立南本町小学校校長 江口武正	1987	
109	社会科実地研究シンポジウム 社会科教師に望まれるもの～社会科教師の心得7ヶ条～	前上越市立南本町小学校校長 江口武正	1987	
110	私の学級づくりの原点 学級経営論 学級経営案	上越教師の会前会長 江口武正	1988	
111	東京学芸大学付属図書館主催講演会 演題「地域に根ざす社会科教育の実践」	江口武正	1988	
112	<資料集X V>地域開発史Ⅳ 頸北	新潟県社会科教育研究会	1988	
113	上越教育大学「社会科教育」第一回講座 講座名 地域に根ざした社会科教育の実践	江口武正	1989	
114	上越教育大学「社会科教育」講座 地域に根ざす社会科教育の実践	江口武正	1990	
115	上越教育大学社会科実地研究シンポジウム 社会科教師に望まれるもの～社会科教師の心得7ヶ条～	前上越市立南本町小学校校長 江口武正	1990	
116	上越教育大学「社会科教育」第一回講座 講座名 地域に根ざした社会科教育の実践	前上越市立南本町小学校校長 江口武正 欠	1990	
117	新潟県青少年赤十字賛助会10周年記念 賛樹	新潟県青少年赤十字賛助会	1990	
118	江口武正文庫目録	上越教育大学 社会系社会科教育教室	1990	
119	会報 第八号	お城の運を愛する会	1992	
120	郷土史研究と私の生きがい	「悠」8月号 きょうせい	1992	p.29
121	伝説と昔話	FACES OF TOMORROW 上越テクノセンターだより vol.12	1993	p. 1
122	自分史についてのメモ	江口武正	1995	
123	朝日新聞 上越タイムスに掲載されたいじめの記事 上越市立春日中学校の場合 平成七年十一月二十八日以降	朝日新聞 上越タイムス	1995	
124	朝日新聞 上越タイムスに掲載された授業拒否問題	朝日新聞 上越タイムス	1995	
125	平成7年度以降 上越教師の会級	西城町4丁目 江口武正	1995	
126	上越教育大学社会科第二回講義要項・資料		1996	
127	平成8年度（第一回）上越教育大学講義用・要項・資料	江口武正	1996	
128	江口武正年譜	江口武正	1998	
129	松籟 第30号	上越市老人クラブ連合会	2001	
130	上越教育大学「社会科教育」第一回講座 私の社会科教育実践の歩み	上越市立南本町小学校校長 江口武正	1985or 1986	
131	上越教育大学「社会科教育」講座・シンポジウム要旨	上越市立南本町小学校校長 江口武正	1985以降	
132	上教大講義資料（断片）	江口武正	1992頃	
133	上越教育大学「社会科」第一回目講義要項・資料の原本	江口武正	1994・1995	
134	講座名 すぐれた社会科の授業を目指して	江口武正		様々混在
135	くびきの子ら 中頸城郡小中学校児童生徒作品集	新教組中頸支部青年部編		不明
136	社会科の誕生とその後の主な歩み（主要な社会科実践）			不明 原稿とコピー
137	学習過程の追求のために 資料 主体的な学習と盛り上げるための実態のとらえ方	江口武正		不明
138	ひざをつき合せて～やはりよかった部落PTA～			不明
139	私が大きくなったら			不明
140	資料 学級づくり論	学校長 江口武正		不明
141	上越教師の会“学級づくり”の系譜	直江津市教委 江口武正	1967	
142	2 社会			不明
143	ヘソの緒の話	みんなで生き方を考える道徳 中学1年 日本標準		不明 pp.96-101
144	この市民運動を爽やかに～捕虜収容所問題をめぐって～	前上越市史編さん委員長 江口武正		不明
145	直江津のうつりかわり（感想文）			不明
146	教職四十年 その経歴と遺産	江口武正		不明
147	私の年譜 資料 ノートあり			不明
148	ざおん祭の歌 江口武正作詞	子どものための新作歌曲集 新潟県上越音楽教育研究会		不明 p.17

付 - 江口以外が作成した実践資料（併置）

-	僕の研究集	新潟県中頸城郡津有村立戸野目小学校 丸山松雄	1950	
-	昭和27年度 学級経営録	戸野目小学校3年1組 担任片桐玲子	1952	
-	たんぼ	上雲寺校3の1 担任山賀昭治	1955	

A Study on EGUCHI Takemasa's First-hand Records of Educational Practice

Seiji WAIDA * and Satoshi KAMADA ** and Hideki SUGIURA ***

ABSTRACT

Joetsu Area, the southwestern part of Niigata Prefecture, is a famous place with long history and excellent educational practice. One of the typical examples was organized and practiced by a teacher named EGUCHI Takemasa, the main leader of Joetsu – Kyoshi – no – Kai (Teachers Circle in Joetsu). More than 50 years' practice of this Circle is a great legacy of post – war history, and it also gives us a good deal of enlightenment for our education now and in the future. From the viewpoint of EGUCHI' s activities and the first – hand files and materials, we are trying to give a chronological analysis on the practice of EGUCHI and the Circle.

* Division of Learning Support

** Center for Educational Research and Development

*** Division of Childhood Education